

平成24年度「域学連携」
地域づくり人育成支援事業

平成25年3月

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課
人材力活性化・連携交流室

目次

序章	はじめに	1
第Ⅰ章	事業概要	2
1.	事業の枠組み	2
2.	今年度実施した「講座」の組み立て	3
(1)	「講座」の企画立案の方法	3
(2)	実施の流れ	4
(3)	今年度の実施概要	5
第Ⅱ章	今年度の成果（各地で実施された講座の詳細）	8
1.	最上のまちづくり地域リーダー塾実行委員会	10
2.	つくば地域人材育成実行委員会	16
3.	近江地域づくり人交座実行委員会	22
4.	きくち地域づくり人育成塾実行委員会	28
5.	やんばる地域づくり人育成講座実行委員会	34
第Ⅲ章	本年度の振り返り（今後の展開に向けて）	39
1.	報告会	39
(1)	開催日時	39
(2)	出席者	39
(3)	プログラム	40
(4)	主なコメント	40
2.	受講者アンケート	42
3.	本年度の成果とポイント	57
(1)	域学連携による成果	57
(2)	域学連携の運営の留意点・ポイント	59
4.	今後の展開	62
(1)	フォローアップの展開（フォローアップ講座の必要性）	62
(2)	ステップアップの展開（ステップアップ講座の必要性）	62
(3)	「域学連携」地域づくり人育成講座開催地域の拡大	62

序章 はじめに

1. 目的

地域活性化においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが重要である。そのような状況を生み出すために必要となる、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成するために、総務省は昨年度より「地域づくり人育成講座」を開催している。

今後は、地域が主体となって、地域の大学等と連携しながら同様の講座（域学連携地域づくり人育成講座）を開催（市民向けの公開講座を地域の大学等で開催）することで、全国に取組を広げていくことが重要である。

本事業は、そのモデルとなる講座の実施について支援するものである。

そして、当事業によって得られたノウハウや課題について整理を行うことで、今後の地域の取組をより促進し、日本の地域再生を加速させることを目的としている。

2. 事業の進め方

域学連携地域づくり人育成講座の実施にあたっては、総務省が株式会社価値総合研究所と「平成24年度「域学連携」地域づくり人育成支援事業の請負」について契約を締結し、株式会社価値総合研究所が事務局として運営を行った。

第I章 事業概要

1. 事業の枠組み

この事業は、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成するために、地域のまちづくり団体や NPO、地元の大学等が連携して（以下、「実行委員会」という）、「域学連携地域づくり人育成講座」（以下、「講座」という）を開催し、当該地域における地域づくり人育成のモデルを構築することを目的としている。

そして、この事業では、「実行委員会」に対して、講座開催等に関する助言や「人材力活性化研究会」からの講師派遣のほか、講師謝金、旅費、講義資料作成費など講座開催に係る経費で適正と認められるものについて一定の限度額の範囲において支援を行うとしている。

本年度は、「実行委員会」を 5 団体程度、募集・選考して、講座の実施を支援した。

■「域学連携」地域づくり人育成支援事業のねらい・目的

- ①地域における地域づくり人育成のモデルを構築し、全国に取組を広げること。
- ②事業を通じて、自治体と大学のみならず、まちづくり団体・NPO・企業なども含め地域全体が連携すること。
- ③主体的に講座を運営する NPO 等の中間支援団体を育成すること。
- ④当事業によって得られたノウハウや課題について整理を行うことで、今後の地域の取組をより促進し、日本の地域再生を加速させること。

■「講座」の実施主体

自治体・大学・まちづくり団体・NPO・企業等を構成員とする「実行委員会」。
※自治体、大学、まちづくり団体・NPO の参加は必須。
※予算の交付先は「実行委員会」の中心的組織で法人格を有する者（例えば自治体、NPO 法人等）。

2. 今年度実施した「講座」の組み立て

各「実行委員会」が開催する「講座」は、以下の要領に沿って、各「実行委員会」が検討・実施するとした。

(1) 「講座」の企画立案の方法

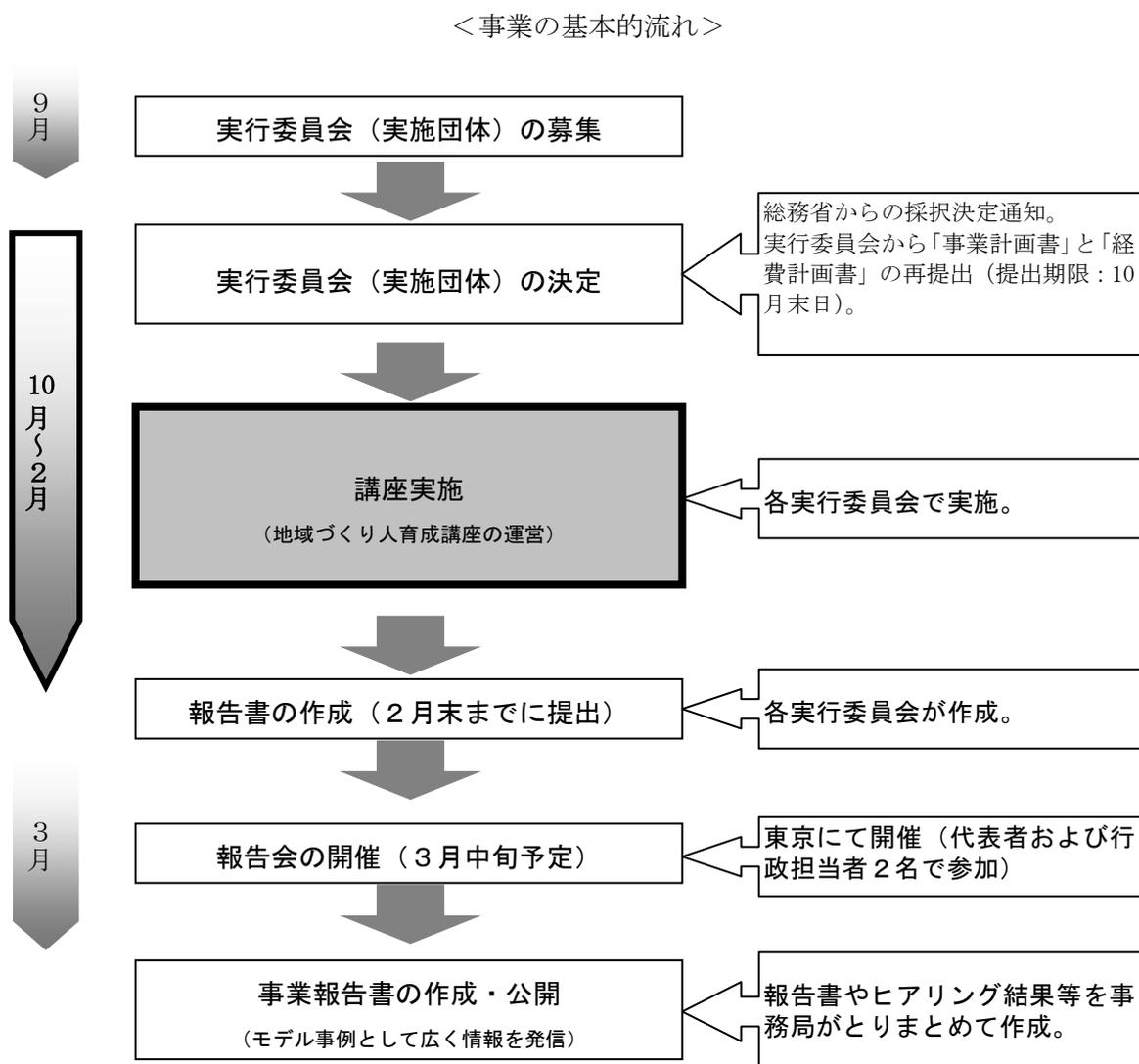
今年度実施する「講座」の企画立案・実施の方法としては、以下の要領を想定した。

■ 「講座」の企画立案・実施方法

- 「実行委員会」が実施する「講座」は、地域の人づくりに関する市民向けの公開講座等を想定。
- 「講座」のカリキュラムは、各「実行委員会」で検討。
例えば、毎週1コマ10週間の連続講座や、地域に入っの課題発見、フィールドワークなどを行うことを想定。
- 講師は、「実行委員会」が選定した大学の教員、まちづくり団体・企業経営者、地元で地域づくりに活躍されている人材などとし、総務省「人材力活性化研究会」構成員または総務省職員等も参加してリレー方式で講座を展開。
※基本テキストとして「人材力活性化プログラム」を使用。
- 総務省は「講座」の企画・運営に要する経費について、1団体あたり100万円を上限に支援を行う。

(2) 実施の流れ

今年度は以下の流れより実施した。



(3) 今年度の実施概要

今年度開催された「講座」の概要は以下のとおりある。

山形県最上町 最上(さいじょう)のまちづくり地域リーダー塾実行委員会													
講座の特長													
<ul style="list-style-type: none"> ■「入門コース」、「リーダー育成コース」、「サポーター養成コース」の3つのコースを開講。 ■「入門コース」、「リーダー育成コース」は仕事帰り等に受講できるよう平日夜間に開講。「サポーター養成コース」は1泊2日の集中講義。 ■座学とワークショップの組合せによる、受講者相互の交流。 													
講座の内容													
開催の目的	<ul style="list-style-type: none"> ◆領域・分野を超えた人材の育成 ◆地域リーダーの育成 ◆担い手層の拡大 												
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域づくり入門コース: 地元学と地域づくりに対する理解 ◆地域リーダー育成コース: 地域経営の視点を持ったマネジメント能力育成 ◆地域づくりサポーター養成コース: サポートのあり方等についての理解 												
習得するスキル・知識等	<ul style="list-style-type: none"> ◆入門コース: 地元学、人的ネットワークの作り方 ◆リーダー育成コース: 地域経営に関する基礎的な知識と認識 ◆サポーター養成コース: 地域リーダーを支えるために必要な知識・技術 												
受講対象・定員	<ul style="list-style-type: none"> ◆入門コース: 一般市民 ◆リーダー育成コース: 地域リーダー、プロジェクトリーダー ◆サポーター養成コース: 行政、中間支援団体関係者 												
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆著名な講師や大学教授の専門性の高い話を聴講できる貴重な機会の創出 ◆様々な講師による講座の受講 ◆大学との連携、および、実施構成団体との連携強化 												
受講日程													
■地域づくり入門コース <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 12月13日</td> <td>◆特別講義 「全住民参加型の地域づくりとは」</td> </tr> <tr> <td>2 1月11日</td> <td>◆講義・グループ討議 「地元学のススメ」</td> </tr> <tr> <td>3 2月5日</td> <td>◆グループ討議・発表 「地域間連携、人的ネットワークづくりをどう図るか」</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	内容	1 12月13日	◆特別講義 「全住民参加型の地域づくりとは」	2 1月11日	◆講義・グループ討議 「地元学のススメ」	3 2月5日	◆グループ討議・発表 「地域間連携、人的ネットワークづくりをどう図るか」				
開催日	内容												
1 12月13日	◆特別講義 「全住民参加型の地域づくりとは」												
2 1月11日	◆講義・グループ討議 「地元学のススメ」												
3 2月5日	◆グループ討議・発表 「地域間連携、人的ネットワークづくりをどう図るか」												
■地域リーダー育成コース <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 12月14日</td> <td>①講義「やねだん型地域リーダー論」 ②意見交換会</td> </tr> <tr> <td>2 12月20日</td> <td>①講義「実践的地域経営論」 ②意見交換会</td> </tr> <tr> <td>3 1月15日</td> <td>①講義・ワークショップ 「地域資源発掘・活用術」 ②意見発表</td> </tr> <tr> <td>4 2月8日</td> <td>①講義・ワークショップ 「地域人材発掘・活用術」 ②意見発表</td> </tr> <tr> <td>5 2月21日</td> <td>①講義・ワークショップ 「コミュニケーション力と情報発信力」 ②意見発表</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	内容	1 12月14日	①講義「やねだん型地域リーダー論」 ②意見交換会	2 12月20日	①講義「実践的地域経営論」 ②意見交換会	3 1月15日	①講義・ワークショップ 「地域資源発掘・活用術」 ②意見発表	4 2月8日	①講義・ワークショップ 「地域人材発掘・活用術」 ②意見発表	5 2月21日	①講義・ワークショップ 「コミュニケーション力と情報発信力」 ②意見発表
開催日	内容												
1 12月14日	①講義「やねだん型地域リーダー論」 ②意見交換会												
2 12月20日	①講義「実践的地域経営論」 ②意見交換会												
3 1月15日	①講義・ワークショップ 「地域資源発掘・活用術」 ②意見発表												
4 2月8日	①講義・ワークショップ 「地域人材発掘・活用術」 ②意見発表												
5 2月21日	①講義・ワークショップ 「コミュニケーション力と情報発信力」 ②意見発表												
■地域づくりサポーター養成コース <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月22日</td> <td>①講義 「地域の人的力向上の必要性について」</td> </tr> <tr> <td>13日</td> <td>②ケーススタディ 地域づくりサポーター最新情報 ③グループワーク これからの地域おこし協力隊は</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	内容	1月22日	①講義 「地域の人的力向上の必要性について」	13日	②ケーススタディ 地域づくりサポーター最新情報 ③グループワーク これからの地域おこし協力隊は						
開催日	内容												
1月22日	①講義 「地域の人的力向上の必要性について」												
13日	②ケーススタディ 地域づくりサポーター最新情報 ③グループワーク これからの地域おこし協力隊は												

茨城県つくば市 つくば地域人材育成実行委員会									
講座の特長									
<ul style="list-style-type: none"> ■市民活動団体のリーダークラスを対象とした講習。 ■災害時の連携というつくば近隣が受講生が共有しやすい事例を入口に各セクターの連携の在り様を理解。 ■受講者各自が取り組む活動でのコーディネートが必要な場面と役割、立ち位置の「見える化」と理解。 ■2日間の集中講義。 									
講座の内容									
開催の目的	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治体、大学、企業、NPOなどを繋ぐコーディネーターの育成に焦点 ◆現在行われている自治体、大学、企業、NPOの密な連携の様子を広く紹介 ◆講師と受講生が一体となったフォローアップ体制の構築 								
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆産官学民の各セクターが持つ「強み」を発見 ◆「協働の設計図」を作成 ◆各自コーディネーターの役割や課題を「見える化」 								
習得するスキル・知識等	<ul style="list-style-type: none"> ◆産官学民のセクター間、市民活動団体間、リーダーとメンバー間など多様に存在するコーディネーターの立ち位置のそれぞれの役割の理解 ◆各セクターが地域で行っている協働のための取組 								
受講対象・定員	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域活動の実践者 ◆定員: 30名 								
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆多分野にわたる受講生・講師陣との活発な交流と、ネットワークの拡大 ◆コーディネーターの役割の理解 ◆産官学民、各セクターそれぞれが持つリソースの掘り起こし及び整理 								
受講日程									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月22日</td> <td>講座① 「域学連携地域づくり人育成支援事業のねらい」 「人材活性化研究会の報告」</td> </tr> <tr> <td>2月23日</td> <td>講座②事例発表「行政」 講座③事例発表「大学」 講座④事例発表「NPO」 講座⑤フィールドワーク 「つくば市民活動センター視察」 「つくば市民活動センターの取り組み」 「つくば市民活動センターの紹介」</td> </tr> <tr> <td>2月24日</td> <td>講座⑥事例発表「企業」 講座⑦ 「地域力コーディネーター養成講習」 演習①4つのセクター(産官学民)の強みを整理する 演習②「協働の設計図」をつつてみよう 講座⑧「2日間の全体総括」</td> </tr> </tbody> </table> 		開催日	内容	1月22日	講座① 「域学連携地域づくり人育成支援事業のねらい」 「人材活性化研究会の報告」	2月23日	講座②事例発表「行政」 講座③事例発表「大学」 講座④事例発表「NPO」 講座⑤フィールドワーク 「つくば市民活動センター視察」 「つくば市民活動センターの取り組み」 「つくば市民活動センターの紹介」	2月24日	講座⑥事例発表「企業」 講座⑦ 「地域力コーディネーター養成講習」 演習①4つのセクター(産官学民)の強みを整理する 演習②「協働の設計図」をつつてみよう 講座⑧「2日間の全体総括」
開催日	内容								
1月22日	講座① 「域学連携地域づくり人育成支援事業のねらい」 「人材活性化研究会の報告」								
2月23日	講座②事例発表「行政」 講座③事例発表「大学」 講座④事例発表「NPO」 講座⑤フィールドワーク 「つくば市民活動センター視察」 「つくば市民活動センターの取り組み」 「つくば市民活動センターの紹介」								
2月24日	講座⑥事例発表「企業」 講座⑦ 「地域力コーディネーター養成講習」 演習①4つのセクター(産官学民)の強みを整理する 演習②「協働の設計図」をつつてみよう 講座⑧「2日間の全体総括」								

講座の特長

- 他の人財育成プログラムの受講生等。
- ベテランリーダーと若手リーダーの対話・討議型の講義等を通じたリーダーに必要な意識等の「縦の継承」。
- 講師も受講生もフラットに「教え⇄学び合う」場を創出。
- 講師も含めた地域づくり人財同士の出会いと交流ネットワークの構築。

講座の内容

<p>開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆県内各プログラムで育成された人財同士の出会いと学び合いの場の構築 ◆フォローの発掘・育成 ◆域学連携による人財育成体制の展開 	<p>受講日程</p>
<p>達成目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆人財個々の資質の向上 ◆人財ネットワーク(力)の向上 ◆域学連携による人財育成推進体制の継続・発展 	<p>1月13日</p> <p>風土の再生と「地域づくり人」</p> <p>①開講式 「いよいよ域学連携いざ地域づくり」 「人こそ宝 人口300人“やねだん”の明るい地域再生」</p> <p>②講義 「風土に根ざして頑張るコミュニティのプレゼン」 三田体 ③WS 「車庫間答(グループディスカッション)」</p>
<p>習得するスキル・知識等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域づくりに関する思想及び先端の取り組みの知見を習得 ◆身近な地域で活動する次世代リーダーたちの存在と、活動に関する情報や知見を獲得 	<p>1月27日</p> <p>なわいりの再生と「地域づくり人」</p> <p>①基調講義 「“力”が地域に希望を灯す」 「期待のなわいり製造業・事業家によるプレゼン」 五田体 ②WS 「車庫間答(グループディスカッション)」</p>
<p>受講対象・定員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆他の人財育成プログラムの受講生 ◆県内に通勤通学し地域づくりに関心がある大学生、社会人、自治体職員 ◆定員:30名 	<p>2月3日</p> <p>くらし・福祉の再生と「地域づくり人」</p> <p>①基調講義 「環境社会 支援と被支援を超えて支障のまちはへ」</p> <p>②講義 「新しい居場所と支え合いの関係者によるプレゼン」 五田体 ③WS 「車庫間答(グループディスカッション)」</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治体や多分野にわたるNPO等との連携強化 ◆学びの場の共有と受講生相互のネットワークの拡大 ◆域学連携による人財育成推進体制の継続・発展 	<p>2月24日</p> <p>フィールドワーク 居合わらから社会せへー東近江地域の発展に学ぶ</p> <p>①講義 レクチャー①「東近江における自立分権社会実現に向けた取組」 レクチャー②「愛のまちエコ倶楽部の取り組みについて」 レクチャー③「おいとろくしモール構想等について」</p> <p>②フィールドワーク 「長寿競争の現状と課題」 ③WS 「車庫間答(グループディスカッション)」 ④懇親交流会</p>

講座の特長

- 社会福祉協議会や看護系大学、行政福祉課等が連携した地域づくり人材講座。
- 講義、演習(ワークショップ)、現地調査(フィールドワーク)と、地域リーダーとして必要な学びを、基礎から順序だてたプログラム。
- 塾生の団結力が生まれるようグループワークの導入と、各講義ごとの意見交換会を実施。

講座の内容

<p>開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域づくりの核となるリーダーを育成する ◆大学が保有している専門的な知識の活用や、一流の講師陣を集めた民間主導型での開催 	<p>受講日程</p>
<p>達成目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学びを活かす事の出来るグループへの所属や、自らグループの立ち上げを目指す 	<p>11月25日</p> <p>①講義「地域コミュニティと地域力について」 ②講義「公民館活動と地域づくり」</p>
<p>習得するスキル・知識等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域福祉と地域づくり活動の関係 ◆先進事例視察を通じた地域づくりへの意欲 ◆地域調査、ワークショップ、ファシリテーション、プレゼンテーションの手法 	<p>12月2日</p> <p>①講義「地域福祉活動について」 ②視察研修「地域おこし実践事例について」</p>
<p>受講対象・定員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域おこしや地域づくりに関心を持つ一般市民 ◆定員:20名 	<p>12月9日</p> <p>①演習 「地域調査の仕方とワークショップの手法について学ぶ」 ②講義 「近隣地域についての地域調査についてオリエンテーションをする」</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆従来の「地域福祉」の枠を超えた「地域再生」に向けた連携 ◆塾生の紐帯と一体感の形成、今後の連携に向けた相互の関係性を構築 ◆新たな地域づくり団体の立上げ 	<p>12月16日</p> <p>①演習 「油間地域フィールドワーク」 ②演習 「油間地域の地域おこしについて考える」</p>

講座の特長

■講義や演習等を通じて学ぶ「基礎講座」、地域の課題の発見から解決に向けた取り組みを作り上げるプロデュースの手法について学ぶ「実践講座」の開催。
 ■「基礎講座」では、講義内容に合わせて、毎回1時間程度参加者同士の対話の場としてワークショップを実施。

講座の内容

開催の目的

- ◆地域づくりを進めていくための基本的な考え方・知識の修得機会の創出
- ◆行政・事業者・大学・市民のセクターを超えて地域づくりに関して議論をする場の構築

達成目標

- ◆基本的な考え方・知識の修得
- ◆名桜大学を拠点とした行政・大学・地域の事業者・市民のつながりの創出
- ◆行政・事業者・大学・市民の各セクターの地域づくりに関する相互理解

習得するスキル・知識等

- ◆地域づくりに関する基礎的な考え方、知識
- ◆地域課題の発見から解決に向けた取り組みを作り上げるプロデュース手法



受講対象・定員

- ◆沖縄本島北部12市町村で地域づくりに取り組む行政・地域の事業者・市民、ならびに大学関係者
- ◆定員：70名



成果

- ◆地域づくりスキル等の修得
- ◆受講者の大学との連携意義の理解と、ネットワークの構築
- ◆沖縄本島北部12市町村地域内における地域づくり人材のネットワーク構築

受講日程

■基礎講座		
回数	開催日	内容
1	11月28日	①講義 「人材力で地域が変わる総務省の施策紹介」
2	12月19日	①講義 「感動を生む自治会による自主事業づくり」
3	1月22日	①講義 「民治体験による島の活性化」
4	1月30日	①講義 「異業種間の協力で地域ブランドを築く」
5	2月2日	①フィールドワーク 「ツーリズムと地域づくり先進地視察」
6	2月6日	①講義 「大学と地域の連携について」
■実践講座		
8	2月17日	①演習 「地域づくりにおけるより実践的な課題解決」



第II章 今年度の成果（各地で実施された講座の詳細）

この事業では、「実行委員会」それぞれが地域の状況を勘案しながら、地域が必要とする人材像を明らかにし、その育成に必要なカリキュラムと講師、講義日程等を検討・実施した。

このため、今年度5つの地域で開催された「講座」それぞれに狙いや目標があり、カリキュラムに相違工夫がなされている。また、推進体制や方法についても特徴があることから、今後、「講座」を開催する地域にとって参考になるものと思われる。

ここでは、各「講座」の特徴を整理するとともに、各「実行委員会」からの報告を整理した。

	最上			つくば	近江	さくち	やんばる	
	入門	リーダー育成	サポーター養成				基礎	実践
タイプ	行政主導型							
構成	●	●	●	●	●	●	●	●
大学	●	●	●	●	●	●	●	●
地域団体	●	●	●	●	●	●	●	●
NPO	●	●	●	●	●	●	●	●
企業	●	●	●	●	●	●	●	●
運営体制	◎最上町 ・山形大学 ・最上町産業振興協議会 ・最上町区長連絡協議会 ・最上町公民館長連絡協議会 ・最上町社会福祉協議会 ・NPO法人アルカディアもがみ ・NPO法人やまなみ ・NPO団体山と川の学校 ・最上町青少年育成町民会議 ・最上町社会貢献登録事業							
目的	●	●	●	●	●	●	●	●
対象	●	●	●	●	●	●	●	●
学習内容	●	●	●	●	●	●	●	●
学習形式	●	●	●	●	●	●	●	●
開講日	●	●	●	●	●	●	●	●
回数	3回	5回	2日間	2日間	4回	9回	6回	1日
タイプ	NPO主導型							
構成	●	●	●	●	●	●	●	●
大学	●	●	●	●	●	●	●	●
地域団体	●	●	●	●	●	●	●	●
NPO	●	●	●	●	●	●	●	●
企業	●	●	●	●	●	●	●	●
運営体制	◎滋賀県立大学 ・NPO法人コミュニケーションネットワーク(略称:ネット) ・滋賀県 ・東近江市 ・米原市							
目的	●	●	●	●	●	●	●	●
対象	●	●	●	●	●	●	●	●
学習内容	●	●	●	●	●	●	●	●
学習形式	●	●	●	●	●	●	●	●
開講日	●	●	●	●	●	●	●	●
回数	3回	5回	2日間	2日間	4回	9回	6回	1日
タイプ	NPO主導型							
構成	●	●	●	●	●	●	●	●
大学	●	●	●	●	●	●	●	●
地域団体	●	●	●	●	●	●	●	●
NPO	●	●	●	●	●	●	●	●
企業	●	●	●	●	●	●	●	●
運営体制	◎一般社団法人エクスペリッジ ・名城大学 ・名護市 ・北部市町村圏事務組合							
目的	●	●	●	●	●	●	●	●
対象	●	●	●	●	●	●	●	●
学習内容	●	●	●	●	●	●	●	●
学習形式	●	●	●	●	●	●	●	●
開講日	●	●	●	●	●	●	●	●
回数	3回	5回	2日間	2日間	4回	9回	6回	1日

1. 最上のまちづくり地域リーダー塾実行委員会

開催場所：山形県最上町

事業名：最上のまちづくり地域リーダー塾

(1) 実施の目的・狙い

本町では、町職員の資質向上を目的に、平成22年度からこれまで計3回（延べ10名）にわたって、鹿児島県鹿屋市の柳谷町内会が主催する「やねだん故郷創世塾」に職員を派遣している。また、今秋に予定されている第12回の開塾にも2名の派遣を決定している。その真意とするところは、地域リーダーの育成支援には行政職員の有り様が極めて重要であり、とりわけ地域経営に必要な知識と技術の習得が行政職員に不可欠であるからである。

くわえて、塾長の豊重哲郎氏には、これまで本町に数回訪町していただいております。本町内での講演活動をはじめまちづくりへのアドバイス、地域担い手との交流、土着菌の提供等、多岐にわたって指導をいただいております。

一方、大学との接点という点では、山形大学との域学連携にむけた取り組みが既に始まっており、その具体として「エリアキャンパスもがみ」が特筆される。この取り組みは、本町を含む最上地域(1市4町3村)を会場に、同大学の学生がフィールドワーク活動をとおして地域活性化に資するものである。また、同大学は本年8月に「東北創生研究所」を開設し、自立分散型社会の構築を主テーマに本町を含む最上地域をモデル地として、研究・実践活動に着手している。

以上のことから、本町における人材育成には、豊重塾長を筆頭とする「やねだん故郷創世塾」と「山形大学」とのさらなる連携を必要とするものである。

(2) 達成目標

本町が目指すべき人材育成において求められる姿は、地域経営の視点を持ったマネジメント能力の高いリーダーの育成である。少子高齢社会に即応したまちづくり、6次産業の創出、地域福祉と地域防災力の向上、再生可能エネルギーの利活用等のまちづくりが抱える今後の目指すべき方向を見据えると、もはや領域・分野での人材育成では限界があると言わざるを得ない。

このため今後においては、町行政をはじめ各種各層の関係機関や団体が相互連携をしっかりと築き、共有の担い手、リーダー育成の視点をもって協働し解決しなければならない。

これらのことから、人材育成において本町が解決すべき必要課題は、以下のとおりとするものである。

- ① 領域・分野を超えた人材育成にむけた体制づくりとカリキュラムの策定
- ② 地域経営を視点とする地域リーダーの育成支援
- ③ 担い手層の拡大にむけた学習機会の創出
- ④ コーディネート力とマネジメント力の高い行政職員の資質向上

(3) 受講生

① 募集対象

上記のセミナー、塾及び講座の対象者については既述のとおりであるが、対象範囲について

は、本町内にのみ限定せず、特に行政関係者やNPO関係者については最上地域内からの参加を可とする

②募集方法

(1) 紙媒体による広報活動

① ポスターの制作・発行（100枚）

町内の公共施設及び最上地域における各市町村の主要施設に貼付。

② チラシの制作・発行（4,000枚）

町内向けチラシを制作し、全戸に配布した他、山形大学に送付し窓口に設置。

(2) 電子媒体による広報活動

① 本町の公式ホームページに掲載（3回）、県内自治体へ電子メール発信（3回）

② ブログ、フェイスブック等のソーシャルネットワークの活用（3回）

(3) マスコミへの情報提供

河北新報社 H25.1.16 ワイド東北版にサポーター養成コース記事掲載

(4) 実施体制

以下に示す構成団体をもって「最上のまちづくり地域リーダー塾」実行委員会を組織し、本リーダー塾の運営にあたりとともに、中長期的視野による今後の人材育成にむけたビジョン形成並びにカリキュラムの検討・開発を行う。

① 実行委員会の構成

- ・最上町 ・山形大学 ・最上町産業振興協議会 ・最上町区長連絡協議会
- ・最上町公民館長連絡協議会 ・最上町社会福祉協議会 ・NPO法人アルカディアもがみ
- ・NPO法人やまなみ ・NPO団体山と川の学校 ・最上町青少年育成町民会議
- ・最上町社会貢献登録事業所

② 幹事担当部署

最上町総務課まちづくり推進室

(5) カリキュラム

① 地域づくり人入門コース

地元学、コミュニティ論等のカリキュラムを主体に、セミナー形式で開催。対象は公募制による幅広い層とする一方、地縁団体及び志縁団体（中間支援団体等）の関係者への積極的な参加を促す。

	開催日	内容	講師	会場
1	12月13日 (木)19:00 ～	◆特別講義 「全住民参加型の地域づくりとは」 参加人数：45名	やねだん故郷創世塾 塾長 豊重哲郎氏	町立中央公民館

	開催日	内容	講師	会場
2	1月11日 (金)19:00 ～	◆講義・グループ討議 「地元学のススメ」 参加人数：16名	民俗研究家 結城 登美雄氏	町立中央公民館
3	2月5日 (火)19:00 ～	◆グループ討議・発表 「地域間連携、人的ネットワークづくりをどう図るか」 参加人数：11名	山形大学・東北創 生研究所准教授 村松 真氏	町立中央公民館

②地域リーダー育成コース

総括リーダー及び各分野のプロジェクトリーダーを対象に、地域経営に関する基本的な知識を習得し認識の共有化を図るとともに、受講生相互の交流を図りながら地域づくりリーダーとして必要とされる知識と技術の習得を図る。

	開催日	内容	講師	会場
1	12月14日 (金)10:00～	① 講義 「やねだん型地域リーダー論」 ② 意見交換会 参加人数：20名	やねだん故郷創世 塾 塾長 豊重哲郎 氏	町産業振興 センター
2	12月20日 (木)19:00～	① 講義 「実践的地域経営論」 ②意見交換会 参加人数：11名	山形大学・東北創 生研究所准教授 村松 真氏	町産業振興 センター
3	1月15日 (火)19:00～	① 講義・ワークショップ 「地域資源発掘・活用術」 ②意見発表 参加人数：11名	山形大学人文学部 教授 下平 裕之 氏	町産業振興 センター
4	2月8日 (金)19:00～	① 講義・ワークショップ 「地域人材発掘・活用術」 ②意見発表 参加人数：12名	山形大学理学部 教授 小倉 泰憲 氏	町産業振興 センター
5	2月21日 (木)14:00～	① 講義・ワークショップ 「コミュニケーション力と情報発信力」 ③意見発表 参加人数：16名	森ゼミ主宰 森 吉弘 氏 (元 NHK アナウンサー)	町産業振興 センター 赤倉温泉 あべ旅館

③地域づくりサポーター養成コース

行政職員、NPO等の中間支援組織の関係者、地域おこし協力隊を対象に、地域リーダーを支えるために必要な知識と技術の習得を図る。

	開催日	内容	講師	会場
1	1月22日 (火)14:00 ～ 1月23日 (水)12:00 1泊2日	①講義 「地域の人材力向上の必要性について」 ② ケーススタディ 「地域づくりサポーター最前線」 ③ グループワーク 「これからの地域おこし協力縦」 参加人数：30名	総務省 人材力活性化・ 連携交流室長 大槻 大輔氏 新潟県十日町市 山形県朝日町 山形県最上町 地域おこし協力隊	赤倉温泉 あべ旅館

■実施模様

①地域づくり入門コース



2012. 12. 3 豊重哲郎氏



2013. 1. 11 結城登美雄氏

②地域リーダー育成コース



2012. 12. 14 豊重哲郎氏



2013. 1. 15 下平裕之氏

③サポーター養成コース



2013. 1. 22 大槻大輔氏



2013. 1. 23 ワークショップ

(6) 開催までの工程

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画調整（実行委員会）	↔		↔		↔	
広報・啓発	↔					
地域づくり人入門コース		↔	↔	↔		
地域リーダー育成コース		↔	↔	↔	↔	
サポーター養成コース			↔			
報告書作成					↔	↔

(7) 成果・実績

- ①迫力と説得力のある豊重哲郎さんの講演や、独特の雰囲気と穏やかな口調から地元学を語る結城登美雄さんの講演が好評であった。
- ②本リーダー塾開催により著名な講師陣や大学教授を本町に招き、専門性の高い話を聴けるのは、貴重な機会を得た。
- ③山形大学東北創生研究所とのつながりが持てたことと、実施構成団体との連携を図れたことは大きな成果となった。

(8) 課題・反省点

- ①様々な講師による講座を受けられる利点としては、様々な方の考え方を知ることができ、自分が良いと思う考えだけを取捨選択できるところ。それによって、新しい解決策も生まれるかもしれない。難点としては、人によって正反対なことも話しているので、混乱を招き兼ねない

こと。それによって学びの深まりに欠けてしまうことが危惧される。

②まざまな回があり、いろいろな講師の方のお話を聴くことができ良かった反面、学びの深まりや各講座のつながりをどのように持たせるかは受講者の主観によることから、困惑が生じかないか懸念する部分もあった。

③同じ講師による複数講座にする利点としては、ある程度一環した考え方の基に理解を深めたり、実践的なことを考える時間を設けることができると考えられる。難点としては、その考え方が受講者に合わなかったり、町の方針や現状に合わない場合に、消化不良のものとなってしまうことが考えられる。

④冬季間の夜間での講座開催は、天候の状況に左右される部分があるので、豪雪地帯での冬場の講座開催は難しいと痛感した。町内の方は基より、町外の方にも参加して欲しい講座があっても、足を運んで貰いにくい。また農家経営者の視点では日の長い農繁期を避けることも考慮しなければならない。

(9) 今後の展開について

今回の学びを広く周知する取り組み

多くの人に学びの場の提供をすることも大切であるし、さらにそこに参加することが叶わなかった人もいると考えられるため、講座の情報を公開していく必要がある。その場合、講師に情報公開の了承が得られるかが問題ではあるが、了承が得られた場合は、議事録や資料（一部抜粋）をホームページ上で公開するなどの対応も考えていくことが必要である。

2. つくば地域人材育成実行委員会

開催場所：茨城県つくば市

事業名：つくば発！地域力コーディネーター養成講座

(1) 実施の目的・狙い

本講座の実施の目的は、コーディネーターの役割や立ち位置の「見える化」を図り、地域の課題解決に向けてコーディネーターがどうあるべきかを、演習を通して学ぶことである。

茨城県つくば市では、わずかこの1年強の間に、東日本大震災と竜巻災害と、2つの大きな災害により被害を受け、自治体、大学、企業、NPOそれぞれが復旧・復興に向けて活動を行った事例を、「連携の結果、活動に広がりや深みが生まれた」という観点を交えて紹介する。事例発表を通して、各セクターの強みを整理し、その間をつなぐコーディネーターの必要性・役割を学んでいく。

本講座を行うことで、地域全体での連携を発表者・参加者が再確認し、地域の力をつなげていくためのコーディネーターの重要性と、自分たちがコーディネーターとして関われることの多さを学ぶ。また、受講終了後も実行委員会がフォローアップを行いながら、「地域づくり人」の成長と活動の拡大をはかる。

今回の研修は、これまで地域で実施されてきた研修との違いとして以下の点が挙げられる。

- ①これまで研修の機会がほとんどなかった、地域の宝（自治体、大学、企業、NPOなど）を繋ぐコーディネーターの育成に焦点を当てたこと
- ②つくばで、短期間に見舞われた、2回の災害支援を通して、日頃から培われてきた、自治体、大学、企業、NPOの密な連携の様子を先行事例として広く紹介すること
- ③Facebookを使い、講師と受講生が一体となったグループを作成し、フォローアップ体制を構築すること

(2) 達成目標

- ①産官学民の各セクターの活動事例を通して、それぞれが持つリソースについての見識を深める。
- ②「協働の設計図」作成のグループワークを通して、受講生が感じるコーディネートする上での役割や課題の「見える化」および相互でコーディネーションへの提案を行う。

(3) 受講生

①募集対象

地域活動に長年携わっている方、学生活動の中核を担う方、今後地域の力をコーディネートしてより良い地域づくりを目指したい方。

②応募要件

両日の講義に参加できることを原則としたが、1日だけの希望者も特別参加として認めた。

③募集人数（定員）：30名

④募集方法

地域情報紙「常陽リビング（主に茨城県南地域約25万部）」、ラヂオつくば（つくば市内）、茨城新聞（県内約12万部）と常陽新聞（県内約8万部）（プレスリリースし、記者クラブでの記者会見を通して）、広報つくば2月号（市内約9万世帯及び全事業所）、つくば市市民活動センターのホームページ、Facebookでのイベント案内、筑波学院大学OCP学生スタッフ及び筑波大学学生等への呼び掛け、県内各教育委員会・社会福祉協議会、つくば市内各地域の交流センター及び周辺市町村のボランティアセンターへのチラシの配布・設置（郵送）。原発事故による、福島県から茨城県内への避難者リーダーへの呼び掛け。

（4）実施体制

①実施主体の構成団体名と事務局団体名

構成団体名：

- 1) 特定非営利活動法人つくば市民活動推進機構（略称：つくばEPO）
役割：事務局、受付窓口、広報、経理、講座での活動報告、フィールドワーク調整
- 2) 筑波学院大学
役割：施設貸出、事務局補佐、広報、講座での活動報告
- 3) つくば市（担当部署：市民活動課）
役割：庁内調整、広報、講座での活動報告、フィールドワーク調整
- 4) つくばコミュニティ放送株式会社（ラヂオつくば）
役割：広報、講座での活動報告

特徴：産官学民、全てのセクターが連携して実行委員会を構成した。

中間支援NPOが事務局を担った。

（5）カリキュラム

①講座等の構成、および、ラインナップ・習得するスキル

地域の宝（自治体、大学、企業、NPOなど）を繋ぐコーディネーターについての知見を得るために、講座前半に各セクターの連携事例、及び、フィールドワークを通じた学びの機会を取り入れた。また、講座後半に、講座前半の様々な協働事例を参考にして、「協働の設計図」を描く演習を入れることで、各受講生の持つコーディネーター像の「見える化」を試みた。

<各講座で習得するスキル>

講座①で、総務省の施策、及び人材力活性化研究会のこれまでの取り組みについて知る
講座②、③、④、⑥、⑦前半で、各講座での事例報告を通じた各セクターの強みを知る
講座⑤で、官民連携の実践現場についてフィールドワークを通して知る
講座⑦後半、⑧で、「協働の設計図」作成を通して、受講生が感じるコーディネートする
上での役割や課題の「見える化」を試みる

②講座日程

<1日目（平成25年2月23日（土））>

講座①10時～11時

域学地域支援事業のねらい：総務省人材力活性化連携・交流室 室長 大槻大輔氏
人材力活性化研究会の報告：人材力活性化研究会 副座長 富永一夫氏

講座②11時10分～12時：事例発表「行政」：つくば市危機管理課 課長 長卓良氏

講座③13時～13時50分：事例発表「大学」：筑波学院大学社会力コーディネーター
武田直樹氏

講座④14時～14時50分：事例発表「NPO」：つくばEPO 担当者 小川達己氏

講座⑤15時10分～16時：フィールドワーク（つくば市市民活動センター視察）

つくば市市民活動課の取り組み：つくば市市民活動課 根本浩幸氏

つくば市市民活動センターの紹介：つくばEPO 担当者 辻本善信氏

<2日目（平成25年2月24日（日））>

講座⑥11時00分～11時50分：事例発表「企業」：ラヂオつくば 岩崎幸教氏

講座⑦13時～15時50分 地域力コーディネーター養成演習

演習1) 4つのセクター（産官学民）の強みを整理する

演習2) 「協働の設計図」をつくってみよう

講座⑧16時～16時30分：2日間の全体総括 富永一夫氏

【参加人数実績】：両日参加者20名（1日目36名、2日目21名）

【会場】：講座①～④および、講座⑥から⑧ 筑波学院大学

講座⑤ つくば市市民活動センター

③特長

- 1) 筑波研究学園都市である、つくば市には、多様なセクターや人材が存在し、その多様性を効果的に繋ぐコーディネーターが求められている。このことから、地域でのコーディネーターの育成に焦点を当てた。

- 2) つくば市では、わずか1年強のうちに、東日本大震災と竜巻災害の2回もの大災害に見舞われた。その災害時における産官学民の実際に動きを通して、コーディネーションに焦点を当てた。
- 3) 実態の掴みにくいコーディネーターの役割や立ち位置、各受講生が抱えている課題を「協働の設計図」を通して、「見える化」すること。
- 4) 2日間、全研修参加者には、実行委員会より、修了証を発行する。

■実施模様（写真）



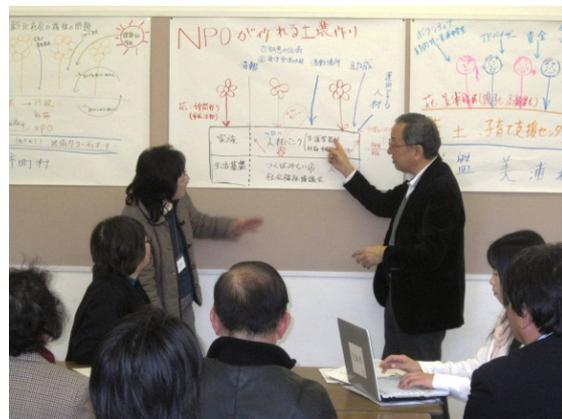
<事例報告>



<フィールドワーク>



<演習の様子1>



<演習の様子2>

(6) 開催までの工程

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画調整（実行委員会）		←			→	
カリキュラム検討・調整		←		→		
開催日程の検討・調整	↔					
会場検討・交渉決定	↔					
講師検討・交渉決定		←		→		
募集方法の検討・調整	←		→			
募集期間				←	→	
研修					■	

(7) 成果・実績

①域学連携の成果・実績

- ・実行委員会を構成した各セクターの強みを活かし、企画・広報・当日の運営をスムーズに行うことができた。特に、事業の目標通り、中間支援 NPO が事務局の役割を果たしきった。
- ・「コーディネーター養成」という、本講座の趣旨に賛同し、実践者の参加が多く得られたため、全体としてレベルの高い研修とすることができた。
- ・全体の内容については、通して参加した受講者 20 名より、内容、時間割、講師陣すべてにおいて高い満足度を得られた。

②人財育成の成果・実績

- ・産官学民、各セクターのそれぞれが持つリソースについて、講座⑦前半でまとめるグループワークを実施、多くのリソースについての掘り起こしおよび整理がなされた。これについての補足をアドバイザーの富永氏よりいただき、理解が深まった。
- ・「協働の設計図」作成演習については、受講者より高い満足度を得られた。コーディネーターという漠然とした役割について、関係性や課題が図式化することで明確になることが、利点であり、このツールの有効性を受講者が本講座で得られたことは、今後のコーディネート活動にたいしても非常に有益であった。
- ・4セクターそれぞれの報告があったため、多分野にわたる受講生・講師陣との活発な交流が生まれ、各自のネットワークの拡大につながった。

(8) 課題・反省点

- ・受講生へのスケジュールの周知が不十分だったのか、座学の1日目、演習の2日目という主催者側の意図が受講生に伝わらず、2日目に欠席が目立った。
- ・テーマ設定と講師陣の良さもあって、受講生が非常に熱心であった。さらに情報交換やネ

ネットワーク化を進めるため、終了後の交流会を設定したが、決定が遅れたため、参加できない受講生もいた。受講生への早めの通知が必要であった。

(9) 今後の展開

- ・活動の実践者が多いため、今回は受講後のアンケートをもとに、より最適なフォローアップ体制を探る形とした。
- ・講座終了後すぐに、受講者・講師の参加する Facebook グループを構築し、今後の連絡・フォローアップ体制の準備にとりかかっている。

3. 近江地域づくり人交座実行委員会

開催場所：滋賀県彦根市

事業名：近江地域づくり人“交”座

(1) 実施の目的・狙い

- 1) 各地の優れたリーダーや先駆者の思想や取り組みを学ぶことにより、リーダーとしての地域づくり人の資質や技能の向上を図るとともに、
- 2) 身近な次世代リーダーの考えや活動を理解して支えるフォロワーとしての資質の向上を図る。また
- 3) 地域づくり人同士がフラットな関係で出会い、語り、学び合い、そこでの交流を通して地域づくり人同士が支え合い連携しあえるような場の構築や、
- 4) “交”座参加者の中から、今後同様の人財育成事業を展開するにあたり、その企画・運営に関わるような人財を発掘することを目的とする。

滋賀県内には地域づくりに関わって既に多くの人財育成プログラム存在しそれぞれ実績を上げているため、当事業では、各プログラムで育成されてきた人財同士の出会いと学び合いの関係と場を構築することを重視して、名称も「講座」ではなく「交座」とした。

(2) 達成目標

- 1) 個々の受講生が各回のテーマに関する全国レベルの先端的事例について理解を深めるとともに、テーマに関する県内の先駆的または萌芽的事例について知見を得、もって地域づくり人としての資質や見識の向上を図ること。また、ワークショップの技法について、実践を通じた習熟を図ること。
- 2) 受講生の交流と学び合いの場と関係を構築すること。また、ソーシャルメディア等を活用して、交流、学び合い、支え合いの枠組みを継続的に活用できるようにすること。
- 3) 域学連携の意義を理解し、また人材育成プログラムの魅力を知り、今後同様のプログラムを推進するにあたり、その企画・運営に主体的に関わるような人財を一定数確保すること。

(3) 受講生

①募集対象

- ・ 滋賀県内在住又は滋賀県内に勤務先や活動拠点があり地域づくりに関心のある社会人
- ・ 県内で実施されている他の人財育成プログラムの受講生
- ・ 滋賀県内の大学に通学又は滋賀県内に活動拠点があり地域づくりに意欲のある学生
- ・ 県内の自治体職員（特に滋賀県立大学が連携協定を締結している市町の職員）

②応募要件

- ・ 全4回受講が望ましい(定員を大幅に超過した場合、全4回受講申込み者を優先的に受付)。

③募集人数(定員)：30名

④募集方法

以下の宛先を中心にパンフレット及びチラシを 50 部程度ずつ配布するとともに、メールにより案内を发出し募集したほか、「フェイスブック」のイベント案内機能を活用して募集した。

①滋賀県立大学の人財育成プログラム「近江環人地域再生学座」受講生と修了生②「近江地域活性研究会」メンバー③NPO中間支援組織「淡海ネットワークセンター」、とくに同センター主催「おうみ未来塾」受講生④「域学連携による地域「共育」プログラム実行委員会」の構成自治体（滋賀県、東近江市、米原市、甲賀市）④その他、県内の人財育成プログラム事務局

(4) 実施体制

事業主体：域学連携による地域「共育」プログラム実行委員会

構成員 ・滋賀県立大学・滋賀県・東近江市・米原市・甲賀市

・特定非営利活動法人コミュニティアーキテクトネットワーク（略称：NPO法人環人ネット）

実施・運営主体：近江地域づくり人“交”座実行委員会

構成員と役割 ・公立大学法人滋賀県立大学（事務局業務、予算管理、進行調整、会場提供）

・NPO法人環人ネット（当日会場スタッフ・ファシリテーター派遣）

※企画・カリキュラム検討、講師調整、広報等については両者協働。

推進体制の特徴

NPO法人環人ネットは滋賀県立大学の地域再生人財育成プログラム「近江環人地域再生学座」の修了者を中心に設立された団体であり、今後大学や地域と連携して当事業のような人財育成プログラムを企画・運営する上で主体的な役割を担う重要なパートナーとして参加した。

(5) カリキュラム

①講座等の構成、および、ラインナップ・習得するスキル

- 1) 講座全体の構成：全4回（計15コマ）シリーズ。1日3コマ×3日間の座学と6コマ分のフィールドワーク1日により実施。各回毎のテーマを設定し講師もテーマに沿って配置。
- 2) 講義の組み立て：座学は1限「基調講義」、2限「事例報告」、3限「車座問答（グループディスカッション）」を1セットとして3回実施。最終回（第4回）はフィールドワーク。
- 3) 習得するスキル等の目標 基調講義を通じて地域づくりに関する思想及び先端の取り組みの知見を習得する。事例報告を通じて身近な地域で活動する次世代リーダーたちの存在及び活動状況に関する情報や知見を獲得する。車座問答を通じてディスカッション及びワークショップのルールや技法を習得するとともに、参加者同士のネットワーク（力）を構築する。

②講座日程（各回の会場、研修内容、時間割、講師名）

平成 25 年 1 月 13 日（日） 時 間：13: 30～18:00 会 場：滋賀県立大学 A4-205 講義室	
風土の再生と「地域づくり人」 「集落のめぐみ」に根ざし、活用しながら独自の地域づくりを展開するための発想と手法、それを担う人材について学び、語り合う。	
第 1 回	1限 開講式～記念スピーチ「いよいよ域学連携 いざ地域づくり人」 総務省人材力活性化・連携交流室室長 大槻大輔氏 基調講義「人こそ宝 人口 300 人“やねだん”の明るい地域再生」 鹿屋市串良町柳谷（やねだん）公民館長 豊重哲郎氏
	2限 風土に根ざして頑張るコミュニティのプレゼン 米原市上丹生プロジェクト K 寺田幸彦氏 近江八幡市白王町集落営農組合 西川 進氏 大津市北比良グループ 山川君江氏
	3限 「車座問答（グループディスカッション）」 ファシリテーター NPO 法人環人ネット
平成 25 年 1 月 27 日（日） 時 間：13: 30～18:00 会 場：滋賀県立大学交流センター研修室	
なりわいの再生と「地域づくり人」 農商工コラボレーションとデザインを通じて新しいなりわいや生き方を創造するためのアイデア、仕組みとそれを担う人材について学び、語り合う。	
第 2 回	1限 基調講義「“農”力が地域に希望を灯す」 NPO 法人地域再生機構副理事長 平野彰秀氏
	2限 期待のなりわい創造家・事業家ブによるプレゼン ウッディバル余呉支配人 前川和彦氏 Konefa サムライプロジェクト代表 家倉敬和氏 D&DEPARTMENT PROJECT 代表取締役社長 相馬夕輝氏 (コメンテーター) 農事組合法人大戸洞舎代表 松本茂夫氏 しがぎん経済文化センター部長 志賀文昭氏
	3限 「車座問答（グループディスカッション）」 ファシリテーター NPO 法人環人ネット
平成 25 年 2 月 3 日（日） 時 間：13:30～18:00 会 場：滋賀県立大学 交流センター研修室	
くらし・福祉の再生と「地域づくり人」 互いの力を必要としあう人同士が出会えるような居場所や出会いを通じて支え合える関係を構築する方策と、それを担う人材について学び、語り合う。	
第 3 回	1限 基調講義「貧魂社会 支援と被支援を超えて支縁のまちへ」 支縁のまちサンガ大阪発起人代表 川浪 剛氏
	2限 新しい居場所と支え合いの開拓者によるプレゼン 甲賀市国際交流協会事務局長 大河原佳子氏 NPO 法人 D. Live 代表理事 田中洋輔氏 NPO 法人こほく自立応援センター理事 本田智見氏 (コメンテーター) 子どもネットワークセンター天気村事務局長 辻充子氏 NPO 法人しみんふくしの家八日市理事長 小槻猛氏
	3限 「車座問答（グループディスカッション）」 ファシリテーター NPO 法人環人ネット
平成 25 年 2 月 24 日（日） 時間：10:00～17:00（バス集合時間・懇親は別途）フィールドワーク 会場：東近江市内	
フィールドワーク 居合わせから仕合せへー東近江地域の現場に学ぶ 「緑の分権改革」や「FEC 自給圏構想」に基づきそれぞれの分野で人々が活動し繋がって活況を呈する東近江地域の現場に学ぶ（貸切バスで移動します）。	
第 4 回	1限 レクチャー①「東近江における自立分権社会実現に向けた取組」 東近江市緑の分権改革推進課 谷 祐一郎氏 レクチャー②「愛のまちエコ倶楽部の取り組みについて」 NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 レクチャー③「あいとうふくしモール構想等について」 同
	2限 フィールドワーク「奥永源寺の現状と課題」 奥永源寺地区集落支援員 高田 清氏 政所茶レン茶 ^ん 丸山紗千代氏 同 山形 蓮氏
	3限 「車座問答（グループディスカッション）」 ファシリテーター NPO 法人環人ネット 修了式 近江地域づくり人“交”座実行委員会
	* 懇親交流会 近江地域づくり人“交”座実行委員会
受講者数	総受講者数：71 名（第 1 講 38 名、第 2 講 46 名、第 3 講 35 名、第 4 講 28 名） 全 4 回中の受講回数：4 回受講 12 名、3 回受講 12 名、2 回受講 14 名、1 回受講 33 名

③特長

1) ベテランリーダーと若手リーダーとの対話・討議型の講義を演出。具体的な現場の実践的な課題についての「子弟問答」による臨場感ある講座を「観戦」した後、参加者全員で「車座問答」へ。講師の布陣そのものを活用して地域づくりリーダーの「縦の継承」も目論んだ。2) 当講座への参加を通じて知り合った人同士が場所及び分野横断で行き来し、時にリーダーとして、時にフォロワーとしてパラレルに立場を交換しながら導き合い支え合える関係枠組みの構築を志向。3) 「教える⇒学ぶ」という一方的な学びではなく、講座に参加する全員が学びについて理解を深め合い、「教え⇔学び合う」場として講座をデザイン。4) 講座自体を滋賀における地域づくり人のネットワークあるいは地域づくり人コミュニティの形成や新たな地域づくりの創発の場にするべくプログラムを構築。人財の横つなぎのネットワーク構築。

■実施模様



(6) 開催までの工程

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画調整（実行委員会）	↔		↔	↔	↔	
カリキュラム検討・調整	↔	↔				
開催日程の検討・調整		↔	↔			
会場検討・交渉決定		↔				
講師検討・交渉決定		←	→↔			
募集方法の検討・調整		↔				
募集期間			↔	→		
研修				■ ■	■ ■	

(7) 成果・実績

①域学連携の成果・実績

【自治体との連携】 1) 受講生募集に際して協力、2) フィールドワーク先の提供・フィールドワークのプログラムの検討・会場の手配、職員の講師としての派遣等人財面での協力（東近江市）。特にフィールドワークにおいては自治体が現に抱える課題についてその現場で直接担当者を介して学び、議論することになり、臨場感のある内容の濃い議論を進めることができた。

【NPO等との連携】 1) カリキュラム検討段階では講師の紹介や出講調整、2) 講師人選にあたりNPO独自の人財ネットワークにアクセスして大学や大学人のネットワークにはない種類の人財を招聘、3) 毎回の「車座問答」においてファシリテーター人財及びスキルの提供。4) NPO側のメリットとしては、プログラム企画段階から大学と連携して取り組むことにより、こうした講座プログラムの企画運営のノウハウを得、経験を積むことができた。

②人財育成の成果・実績

1) 個々の人財の資質と能力の向上については、基調講義で先駆者の言葉や実践から思想や心構えを学び、また、次世代リーダーたちの存在を知り、その挑戦や悩みを共有しつつ彼らフォローし連携しようという意識の萌芽を促す当の成果を上げた。2) 学びの共有と人財間ネットワークの構築に関しては、毎回実施した「車座問答」で、自由な議論の場の意義と魅力を理解し、また、ここでの出会いを受講者自身が自らの活動につなげようとする等成果があった。3) プログラム推進体制の継続と展開に関しては、今後同様のプログラムを推進するにあたり、今回受講生となった人たちの中から、その企画・運営に主体的に関わるような人たちを一定数確保することができた。

(8) 課題・反省点

【カリキュラム立案】

- ・カリキュラム立案段階では、募集期間の都合上、あらかじめの案を大学が策定し、他の連携主体は大学案に乗る形で決めざるを得なかった。事前に時間があれば自治体やNPO等に対して講座の内容に関するニーズ調査等を実施した上で組み立てられたであろう。
- ・講師の人選や調整に関して、諸般の事情により日程の調整の必要が生じ、直前の依頼になった講師もあり、広報に遅れを来した。
- ・今回自治体と連携して大学以外の現場を会場として実施したのは第4講での1回限りであったが、すべての回を各連携自治体の会場持ち回り式で開催できればさらに臨場感ある内容になったであろう。
- ・“交”座の趣旨からして自治体首長や議員等にも参加を求めれば、講座は公共のフォーラムなので、普段とは違う形で議論ができるであろう（今回は選挙期間と重なる等の関係で実現しなかった）。

【運営】

- ・運営面では特に大きな問題は生じなかった。既に連携協定を締結済みの自治体と大学との間で進めており、普段からの関わりが活きて意志疎通や準備の上で問題になるようなことは起きなかった。逆の観点から言えば、そうでない自治体との連携について、今後検討していかなくてはなら

ない。

【役割分担】

- ・当プログラムが個々の知識やスキルの向上よりも人財の交流とネットワーク構築に重きを置いたのは滋賀県においては既に他の大学、自治体、NPO等による多様な人財育成プログラムが存在し一定の実績を上げているという事情があったからである。当“交”座から他のプログラムへの人財や成果の「還元」「マッチング」及び相互乗り入れ等について、可能性もあり、今後の検討テーマである。

(9) 今後の展開

【参加者へのフォローアップ】

- 1) 今回招聘した講師・報告者と受講生からなる“交”座の枠組みは引き続き保持する。
- 2) 今回参加者の募集や各種連絡にはフェイスブックも活用し、一定の効果を見た。“交”座の枠組みの維持としては、さしあたりフェイスブック上のグループページの立ち上げやメーリングリストの立ち上げを検討している。このことに関する意向調査も実施している。

【成果の活用方法】

- 1) 当プログラム最大の成果は域学連携の意義を理解し今後積極的にプログラムの発展に参画したいという意志を持った受講生とのネットワークである。この成果の活用方法を検討すること自体を、このネットワークに呼びかけ、これを活用しながら進めて行きたい。
- 2) 滋賀県立大学における地域教育プログラムと連動させながら、“交”座の資源を大学の教育プログラムの中に還元・活用していきたい。

○次年度以降の取組方向

- 1) 既に触れてきたように、今回の受講生によって今後の具体的な展開案がいくつか提示されており（合宿形式、会場は地域持ち回り等）、自治体との更なる連携や県内の他のプログラムと連携しての人財育成等について、対話と検討を重ね、これらの案の実現に向け取り組みたい。
- 2) 当面は“交”座の枠組みの維持は大学を中心に担うことになろうが、受講生で運営メンバーとして参画する意思ある人も一定数存在することから、今回実行委員会を構成したメンバーに加えてそうした人にも呼びかけて新たな推進体制構築を図る。
- 3) 滋賀県立大学で来年度後期に開設予定の「地域づくり人材論」への接続と展開を図る。

4. きくち地域づくり人育成塾実行委員会

開催場所：熊本県菊池市

事業名：きくち地域づくり人育成塾

(1) 実施の目的・狙い

菊池市ではこれまで、公民館活動や、地域福祉の取組等、様々な分野で地域づくりに取り組み、一定の進展はみられた。しかし、長引く経済不況や少子高齢化・核家族化の進行による多種多様な生活問題により、地域力が弱くなってきている。そこで今回は、様々な分野の力を集結して実行委員会を組織し、菊池を愛し、地域おこしや地域づくりに関心を持つ人々を集め、地域活性化の足掛かりを造っていく人材の育成を目的とする「きくち地域づくり人育成塾」を開催する。

行政等で何らかのリーダー養成講座は幾度となく実施されてきたが、大学が保有している専門的な知識の活用や、一流の講師陣を集めた民間主導型での開催は初めてであり、今後の地域力醸成のパイロット的事業になることを期待している。

(2) 達成目標

- ・地域リーダーとなるためのステップアップとして、その学びを活かす事の出来るグループに所属したり、自ら活動するグループの立ち上げを目指す。また、市全体の地域おこしに対する気運を盛り上げ、地域活性化のための人づくり事業の基礎となる。

(3) 受講生

①募集対象

- ・菊池を愛し、地域おこしや地域づくりに関心を持つ一般市民

②応募要件

- ・全受講が可能な人

③募集人数（定員）

20名程度

④募集方法

- ・全戸配布の「社協だより」、社協のホームページに掲載、また、民生児童委員の定例会、地域福祉委員の研修会、各種市民グループ活動の場にて説明。チラシ 1,000 枚を配布。

(4) 実施体制

①実施主体の構成団体名と事務局団体名

構成団体名	担う役割
九州看護福祉大学	事業全般に亘る指導、フィールドワークへの学生の動員
きくもん福祉ネットワーク	各公開講座の市民への広報活動と講座開催時のスタッフ
菊池よりあい衆	各公開講座の市民への広報活動と講座開催時のスタッフ
菊池市役所福祉課	広報紙による公開講座の周知と職員への周知
菊池市社会福祉協議会	活動事務局

この組織の特徴は、行政福祉課、九州看護福祉大学、社会福祉協議会が、地域福祉計画の繋がり、日頃から連携が図れていることである。また、「きくもん福祉ネットワーク」も、地域福祉計画から生まれた地域福祉を推進する団体として組織された任意団体である。「菊池よりあい衆」は、「やねだん故郷創生塾」の卒塾生でつくる地域おこしの任意団体であるが、今回は一緒に取り組むことで、少子高齢化が進む菊池市の地域に求められるリーダーづくりを目指している。

(5) カリキュラム ①講座等の構成、ラインナップ・習得するスキル②講座日程

日程	内容	スキル、目標	担当講師名	場所・実績
1 11月25日 (日)	・地域コミュニティと地域力について(講義) 1.5h	・初回、基礎知識として、なぜ今地域力なのか、地域コミュニティなのかについて理解する。	九州看護福祉大学 村田 文世氏	(文化会館小ホール) 80名参加 ※公開講座
2	・公民館活動と地域づくり(講義) 1.5h	・地域の中の公民館活動と地域づくりについて学び、その歴史的な展開を理解する。	文部科学省 社会教育課長 伊藤 学司氏	
3	・地域福祉活動について(講義) 1.5h	・地域力から生まれている実際の地域福祉活動例について話を聞き、地域福祉活動と地域おこしについて考える。	ひとちいき計画ネットワーク 代表 佐伯 謙介氏	バス車中研修 塾生及び関係者 34名参加
4 12月2日 (日)	・地域おこし実践事例について(視察研修) 2h	・地域おこしで成功したやねだんの事業の1つである故郷創生塾や、施設を見る事で、地域おこしへの意欲を高める。また、塾生仲間と1日共に過ごす事により仲間意識を育てる。	柳谷公民館 館長 豊重 哲郎氏	(鹿児島県柳谷やねだん公民館) 34名参加

日程	内容	スキル、目標	担当講師名	場所・実績
5	12月9日 (日) ・地域調査の仕方とワークショップの手法について学ぶ (演習) 3h	・地域の問題点、課題、地域の強み、弱みを確認する現地調査の方法を理解する。 ・アイデアのまとめ方やファシリテーターのスキル等を学ぶ。	九州看護福祉大学 佐藤 林正氏	(福祉会館) 塾生及び九州看護福祉大学 学生と関係者 37名参加
6	・迫間地域についての地域調査についてオリエンテーションをする(講義) 1h	・学生を交え、実際に調査をするグループごとに、迫間地域についての事前学習をする。また、和やかな雰囲気で行い、16日の実践に向けての意欲を養う。	菊池市社会福祉協議会	
7	12月16日 (日) ・フィールドワークの実施(演習) 4h	・グループごとに事前学習を活かし、地域の話や、現地見学を行う。五感を使ってより多くの情報を収集する。	実行委員会	(緑の館) 51名参加
8	・ワークショップ(演習) 2h	・地域住民を交え、調査してきた内容、住民の意見をグループごとにまとめる作業をし、迫間地域の地域おこしについて考える。	九州看護福祉大学 菊池市社会福祉協議会	(緑の館) 70名参加
9	12月22日 (土) ・地域づくり実践討論会(講義) 3h	・地域おこしリーダーや六次産業のスペシャリストの話、国の動向を聞き、具体的な1歩について考える。	柳谷公民館館長 豊重哲郎氏 元総務省人材力活性化・ 連携交流室長 澤田 史朗氏 Hello さつま代表 古田 妙子氏	(ホテル笹乃家) 140名参加 ※公開講座
10	1月20日 (日) ・プレゼンテーション力について(講義) 1.5h	・自分の意見、情報、あるいは気持ちなどを、言葉や言葉以外の手段によって、相手に伝える方法を学ぶ。	森ゼミ代表 森 吉弘氏	(文化会館小ホール) 137名参加 ※公開講座
11	1月20日 (日) ・ワークショップのまとめ(演習) 1.5h	地域調査時の5グループのワークショップの内容をまとめる。	菊池市社会福祉協議会	(福祉会館) 28名参加
12	2月3日 (日) ・地域福祉活動について 2.5h	地域の福祉活動報告の評価として開催される地域福祉フォーラムに参加することで、菊池の地域力について学ぶ。	菊池市 菊池市社会福祉協議会 きくもん福祉ネットワーク	(泗水ホール) (323名参加)

日程	内容	スキル、目標	担当講師名	場所・実績
2月 11日 (月) 祭日 13	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会の開催 ・閉講式 3h	<ul style="list-style-type: none"> ・迫間地域の地域おこしについて、ワークショップのまとめを、日程8を活かしながら地域住民に報告することができる。 ・卒塾スピーチで、今回の塾で学んだ事を関係者に伝える事ができる。 	迫間地域住民及び実行委員組織関係者	(緑の館) 59名参加
8日間	28時間			

③特徴

この塾の特徴としては、講義、演習、研修と、すべて地域リーダーとして必要な事を、基礎から順序だてて学んだ。そして実際に地域おこしが始まりつつある地域でフィールドワークを開催し、その地域の地域おこしの拡大も視野に入れつつ実践したことである。また、新たな地域力となるよう、団結力を養うグループワークや、交流の場を取り入れる工夫をしている。



(6) 開催までの行程

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
企画調整（実行委員会）		↔	■		■	■
カリキュラム検討・調整	↔	←→	→			
開催日程の検討・調整	↔	↔				
会場検討・交渉決定		↔	↔			
講師検討・交渉決定		↔	↔			
募集方法の検討・調整		↔				
募集期間		←→				
研修			■	■ ■ ■ ■	■	■ ■

(7) 成果・実績

(ア) 域学連携の成果・実績

「域学連携」の成果としては次の2点があると考えられる。1つは、これまでも大学と社協、行政間には、地域福祉計画の策定、実習生・ボランティアの受け入れなどを通じた協力関係があったが、今回、「社会福祉」の専門機関が各々の専門的知識（例．大学における地域福祉や官民協働、住民参加、社会調査などに関する理論的知識。社協・行政における地域福祉活動、福祉人材育成や住民活動支援に関する実践的知識。福祉ネットワーク等における福祉実践などを通じた経験的知識）を活用し相互補完することで、従来の「地域福祉」の枠を越えたより幅広い「地域再生」に向けた連携が可能となった点。もう1つは、大学と連携することで問題認識を共有する学生を比較的容易に動員できた点がある。それによりフィールドワークにおいては、インターネットなどを活用した斬新かつ柔軟なアイデアを提示することができ、またワークショップにおいては学生がファシリテーターとして機能し、住民の活発な意見を集約することが可能となった。

(イ) 人材育成の成果・実績

塾生のレポートから、この塾のねらいは、ほぼ達成できたと感じている。毎回新しい発見と感動の様子が窺え、地域おこしに関する意識の高揚はねらい通りである。この講座を通して、塾生が紐帯と一体感を形成し、今後の連携に向けた相互の関係性を構築することができ塾修了後には、塾生仲間で新たな団体の立ち上げも出来た。またこの団体は、この人づくり事業の継続と、同じような活動をする団体のネットワーク形成をしていく計画である。本事業が住民が問題認識を共有化し、具体的な実践を視野に入れて地域力を結集する契機になったことは大きな成果である。

また、学生に参加してもらったフィールドワークでは、学生の斬新な地域おこしのアイデ

ィアが、塾生にも迫間地域の参加者にも良い刺激になった。塾生からは、太田区の竹林祭を支援したい等の具体的な話も出てきており、もう一つの目的であった迫間地区の地域おこしの拡大にも繋がった。

(8) 課題・反省点

運営上の反省点として、今回の計画そのものが、呼びかけの期間、開催期間と、スケジュール全体において無理があり、塾生募集については、多種多様な職種であったり、年代であったりという集め方が出来なかった。また、公開講座については、短期間で続けて開催したため、参加者が分散してしまい少なかった。フィールドワークにおいても、地域への周知期間がなく、区長中心の活動となってしまった。時間をかけ、事前の迫間地域住民の意識調査等も実施した上でフィールドワークに繋げる事が出来れば、もっと地域住民の盛り上がりがあったと考える。

さらに、今後の社協や行政における課題として、この気運を継続させていくための様々な“仕掛け”や地域住民、地域資源の連携やネットワーク形成に向けた支援や情報提供など、環境整備の必要性が挙げられる。

(9) 今後の展開

今後は、今回新たに立ち上がった地域資源となる団体等の活動支援と、活用、また人づくり事業の継続を市全体で検討していかなければならない。25年度は、この実行委員会関係団体が関与する地域福祉計画、地域福祉活動計画の中でも、地域資源・住民団体の活用や、人づくり事業に取り組むが、この事業の報告を持って、菊池市に今回のような「地域再生」人づくり事業の継続を市に提案する予定である。

5. やんばる地域づくり人育成講座実行委員会

開催場所：沖縄県浦添市

事業名：「域学連携」地域づくり人育成支援事業

(1) 実施の目的・狙い

- ・沖縄本島北部地域で地域づくりに興味のある方たちが、地域づくりについての基本的な考え方について学べる場をつくること、行政・事業者・大学・市民がつながり、セクターを超えて地域づくりに関して議論をする場を設けること、また、名桜大学がCOCを進めていくために、地域の課題やプレーヤーを把握し、つながりを作っていくことを目的としてやんばる地域づくり人材育成講座を実施した。
- ・これまで実施されてきた研修等との違いとしては、行政・事業者・大学・市民がつながり、セクターを超えて地域づくりに関して対話をする場を設けたことが挙げられる。

(2) 達成目標

今回の講座を実施することで、名桜大学を拠点として行政・大学・地域の事業者・市民のつながりをつくること

(3) 受講生

①募集対象

- ・沖縄本島北部12市町村で地域づくりに取り組んでいる行政・地域の事業者・市民、ならびに大学関係者

②応募要件

- ・特になし（学ぶ意欲のある人）

③募集人数（定員）

- ・各講座上限70名、フィールドワーク上限20名

④募集方法

- ・Facebook ページを作成しての広報、チラシ配布（自治会長向けの連絡会で約1000枚配布）、自治体や事業者へのメール・FAXでの広報

(4) 実施体制

①実施主体の構成団体名と事務局団体名

- ・コーディネート団体の一般社団法人エクスブリッジが中心となって講座を運営・広報を実施。行政・大学・市民・事業者間のつなぎ手の役割を果たす。
- ・名桜大学は、講座会場の提供ならびに講座実施のサポート、大学内への広報を担当。
- ・名護市・北部市町村圏事務組合は市町村等へ広報を担当。

(5) カリキュラム

①講座等の構成、および、ラインナップ・習得するスキル

- ・地域づくりに関する基本的な考え方や知識について、ゲストを招いての講座やフィールドワークを通じて学ぶ基礎講座、地域の課題の発見から解決に向けた取り組みを作り上げるプロデュースの手法について、フィールドワーク・ワークショップを通じて学ぶ実践講座を実施。

②講座日程

■基礎講座

- ・第1回 11月28日(火)
テーマ：人材力で地域が変わる、総務省の施策紹介
講師：大槻大輔氏（総務省人材力活性化・連携交流室長）
- ・第2回 12月19日(水)
テーマ：感動を生む自治会による自主事業づくり
講師：豊重哲郎氏（鹿児島県鹿屋市柳谷〔やねだん〕自治公民館長）
- ・第3回 1月22日(火)
テーマ：民泊体験による島の活性化
講師：山城克己氏（伊江島民泊事業の仕掛け人）
- ・第4回 1月30日(水)
テーマ：異業種間の協力で地域ブランドを発信
講師：平良静男氏（石垣島スパイスマーケット代表）
- ・第5回 2月2日(土) フィールドワーク@東村
テーマ：ツーリズムと地域づくり先進地視察
- ・第6回 2月6日(水)
テーマ：大学と地域の連携について
講師：石筒覚先生（高知大学）

■実践講座 2月17日(日)

- 二見以北地域の事例をケースに、地域づくりにおけるより実践的な課題解決の方法を学ぶ

③特長

・講義形式の講座に合わせて、毎回 1 時間程度参加者同士の対話の場としてワークショップを実施した。ワークショップを実施したことにより大学・行政・市民の方々が立場を超えて対話することができた。またこういった場はとてもニーズが高かった。

■実施模様



(6) 開催までの工程

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画調整（実行委員会）	↔			↔	↔	
カリキュラム検討・調整	←→			←→		
開催日程の検討・調整	←→					
会場検討・交渉決定		←→				
講師検討・交渉決定		←→				
募集方法の検討・調整		←→				
募集期間		←→				
研修		■	■	■■	■■■■	

(7) 成果・実績

①域学連携の成果・実績

- ・人材育成の講座を実施する主体としての名桜大学が認知され始めている。
- ・地域づくりに携わるプレイヤーは、これまで大学とどう関わって良いかイメージがつかなかったが、大学と連携するという方法が選択肢に入るようになってきている。
- ・地域づくりに関わる方が抱える様々な課題が把握できるようになってきている。
- ・地域づくりに携わる人達とのネットワークが構築された。

②人財育成の成果・実績

- ・地域づくりに関するセミナーがこれまで沖縄本島北部で開催される機会があまりない中、先進事例について学ぶ良い機会となった
- ・地域でキーマンとなって活動されている人が、巻き込みたい人を巻き込む機会として講座が活用された。
- ・様々なテーマについての講座を開催したため、様々な問題意識の方に対応できる講座となった。

(8) 課題・反省点

①大学と地域の関わりにおける課題と今後に向けて

- ・地域の方からの声として、大学が地域に対してどんなことが出来るのかがわからないとの声があった
- ・地域の人達は大学生と繋がりたいがどこにアプローチして良いのかわからない。

②人材育成についての課題と今後に向けて

- ・今回は各講座が単発になったため、各テーマにおいて話題提供する程度にとどまり、各課題

の解決に向けた深堀りは十分にできなかった。

- ・個々の参加者の具体的な課題解決に向けては、講座形式での人材育成には限界もあり、課題解決のためのモデル事業を実施していくことも必要だと感じられた。

③コーディネーターの重要性

- ・今回の講座実施において大学・行政・市民のコーディネート役が機能していた。コーディネーター役がいることで、一部の熱心な人だけで進めていく事業でなく幅広く地域の課題を拾い上げ、解決に向けた取り組みを作りうるができる。

④つながれる場の重要性

- ・多様な立場の方が共通のテーマについてディスカッションできる場が求められていた。

⑤反省・課題

- ・講師を予定していた方の日程調整に苦戦した。また、スケジュールがタイトで、広報が満足にできなかった。
- ・大学の先生が忙しくなかなか参加できなかった。
- ・「地域の女性」の巻き込みをもっとしたかった。

(9) 今後の展開

■今後のポイントとなる取り組み、仕掛け

- ・参加者のコミュニティは今後も継続させていきたい
- ・より実践的な課題解決に向けてのプロジェクトを大学発で実施できたらよい。
- ・地域の課題と大学・行政とのつなぎ手となるコーディネーター機能がより充実するとよい。

■次年度以降の取組方向

- ・大学の予算で、地域と連携したコミュニティデザイン研究の実施を検討。
- ・テーマを絞ってより実践的にステップアップしていけるような講座の実施を検討。

※今年度の今後の取組として、3/21（木）にコミュニティデザイナー山崎亮氏を招いての講演会を実施。

第III章 本年度の振り返り（今後の展開に向けて）

全ての「講座」終了の後、その振り返り・結果検証として、報告会の開催と、受講者に対するアンケート調査を実施した。

その開催概要と集計結果を整理した。

1. 報告会

(1) 開催日時

日時：平成25年3月1日 14:00～

場所：都道府県会館401会議室

(2) 出席者

○人材力活性化研究会（50音順 敬称略）

飯盛 義徳（慶應義塾大学総合政策部 准教授）

小澤 浩子（赤羽消防団 副団長）

玉沖 仁美（株式会社 紡 代表取締役）

富永 一夫（特定非営利活動法人 NPO フェージョン長池 理事長）

豊重 哲郎（ふるさと創世塾塾長 柳谷自治公民館長）

前神 有里（愛媛県総務部行政システム改革課 専門員）

○総務省

大槻 大輔（地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室長）

西川 仁（地域力創造グループ地域自立応援課課長補佐）

藤澤 三宝子（地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室連携交流係長）

矢口 徹（地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室人材力活性化係長）

○事務局

目黒 義和（株式会社価値総合研究所 取締役^ハブリックコンサルティング事業部長 主席研究員）

日高 憲扶（株式会社価値総合研究所 ^ハブリックコンサルティング事業部 副主任研究員）

八木 修（株式会社価値総合研究所 ^ハブリックコンサルティング事業部）

(3) プログラム

- 開会
- 取組報告
 - ・最上のまちづくり地域リーダー塾実行委員会
 - ・つくば地域人材育成実行委員会
 - ・近江地域づくり人交座実行委員会
- <休憩>
- ・きくち地域づくり育成塾実行委員会
- ・やんばる地域づくり人育成講座実行委員会
- 講評・意見交換
- 閉会

(4) 主なコメント

■開催スタイルについて

- ・最上は非常に多様な講座を行っている。その中で冬の開催は困難とあったが、それは大切な示唆であろう。
- ・連携の講座は、どちらかというところ、特に、中山間等の条件不利地域が多い。都市で開催する場合と内容等が異なると思う。今後、都市型モデルも必要だ。

■主催者について

- ・菊池では、社会福祉協議会が中心となっている。地方こそ社協が核になってもっと地域づくりに入ったら、もっといろいろなことができると思っている。社協が動く、このように地域を巻き込んでいけるんだというモデル事業だと思う。
- ・やんばるのケースは、各事業の広域連携体が実行委員会を組成して行っている。このケースは広域連携で推進するときのモデル事例になると思った。

■カリキュラムについて

- ・近江では、目標も設計もキャリアゴールも見事だと思った。また、近江商人の地だけあって、言葉の使い方が上手だ。インパクトのある、特に黄色い四角の中の言葉なんてちょっと遊び心もあって、気持ちを引き寄せるような工夫が随所に見られた。
- ・座学とフィールドワークの組み合わせは大切だ。その組み合わせの仕方は試行錯誤であるが、座学の後、実際の現場を見たり経験することは、受講者の理解を促す上で非常に効果がある。
- ・入口を災害時の連携としたことは、受講者にとっても、とっつきやすいと感じた。
- ・つくばの面白さは、初日に、筑波学院大学、企業のコミュニティーFM、行政のつくば市、NPOのつくば市民活動推進機構がそれぞれ日常的なコーディネートの内容を見せた。いわば「わかる化」しようとした。その後、フィールドワークで現場に出かけて一つの例を見学した。二日目のワークショップでは、前日に学んだ方法論を踏まえて、ある課題に対してこんな課題解決

のしかたがあるのではないかとみんなで議論するところまで持ち込んだ。わずか二日間の研修だが、そのメニューを豊富に落とし込んでミックスさせている。

■成果・効果について

- ・最上町は人口 9,800 人で受講者トータルが 95 人。人口のほぼ 1%だ。1%の人が動き始めると革命的な動きが出てくる。この 1%は偉大な 1%だ。
- ・コーディネーションというテーマは、大変、面白い。コーディネーターがつなぐ対象はいろいろあり、それこそ横のつながりだとか、縦のつながり、活動をするもの同士のつながり、支援者と活動者など多様だ。また、つながり方もいろいろ。コーディネーターというと漠然としてしまうが、それを見える化して、自分の立ち位置や役割を明確にしたことは、画期的かなと思う。

■講座の評価について

- ・ちょっと時間を空けて、例えば新しいつながりができて新しい事業が生まれる、何か新しい事業に繋がったなどの計測を図ることが大切だ。

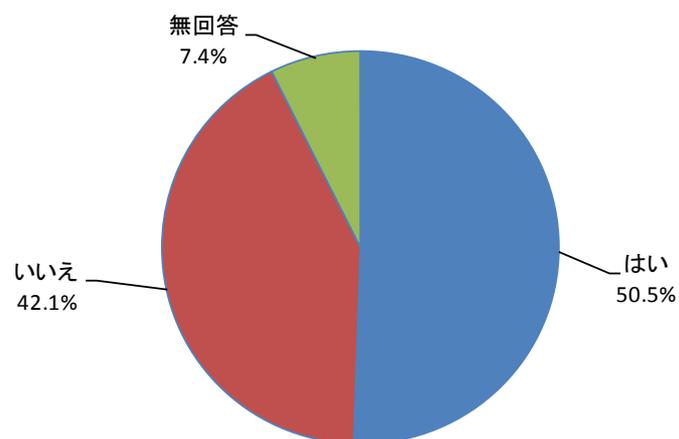
■今後の展開について

- ・講義や先進事例の発表というのは、聞いた時はよその取り組みの話であって、それを自分たちのものにしていくには、みんなで考えていく場というのを増やしていかないといけない。今、吸収しているものをみんなでどうとらえたかというのを話し合う場や、そこから自分たちの町ではどうするというのを議論する場をつくる必要がある。

2. 受講者アンケート

今後の「講座」検討のヒントを把握するため、各「講座」の修了者に対してアンケートを実施し、受講に対する指向等を把握した。

Q1 総務省の事業ということをご存じでしたか？

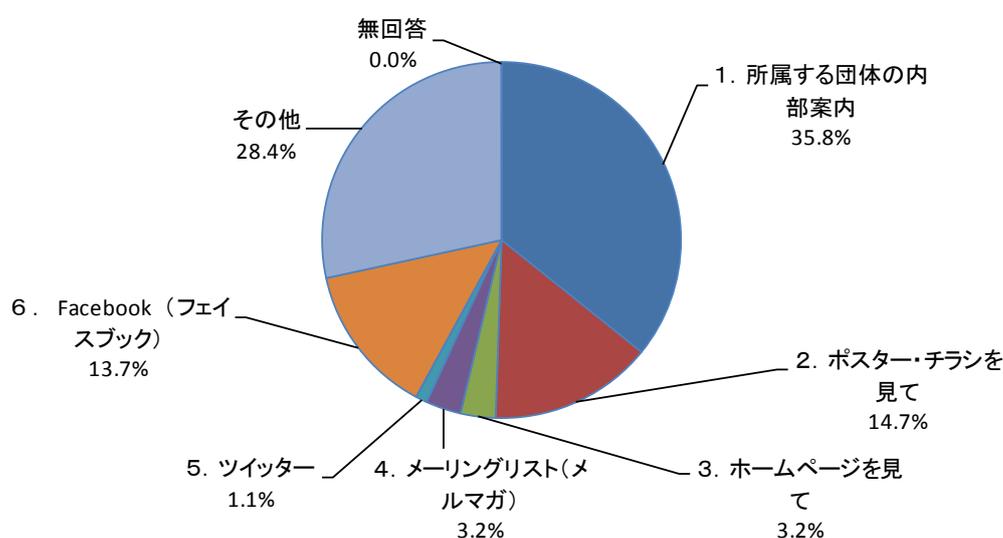


N=95

	回答数	%
はい	48	50.5%
いいえ	40	42.1%
無回答	7	7.4%
合計	95	100.0%

Q2 今回ご参加されたセミナーをお知りになったきっかけをおきかせください。

- ・セミナーを知ったきっかけは、「所属する団体の内部案内」が最も多く、次いで「ポスター・チラシを見て」。
- ・最近注目されているソーシャル・ネットワーキング・サービス（social networking service、SNS）の一つである「Facebook（フェイスブック）」も使用されている。反面、「ホームページを見て」、「メールリングリスト（メルマガ）」、「ツイッター」は少数であった。
- ・「その他」を見ると、個人的なネットワークによる紹介が多い。
- ・今回の場合は、全体的に、参加者自身の人的ネットワークにより講座の存在を知った傾向がうかがわれる。



N=95

	回答数	%
1. 所属する団体の内部案内	34	35.8%
2. ポスター・チラシを見て	14	14.7%
3. ホームページを見て	3	3.2%
4. メールリングリスト (メルマガ)	3	3.2%
5. ツイッター	1	1.1%
6. Facebook (フェイスブック)	13	13.7%
その他	27	28.4%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%

<その他（記述）>

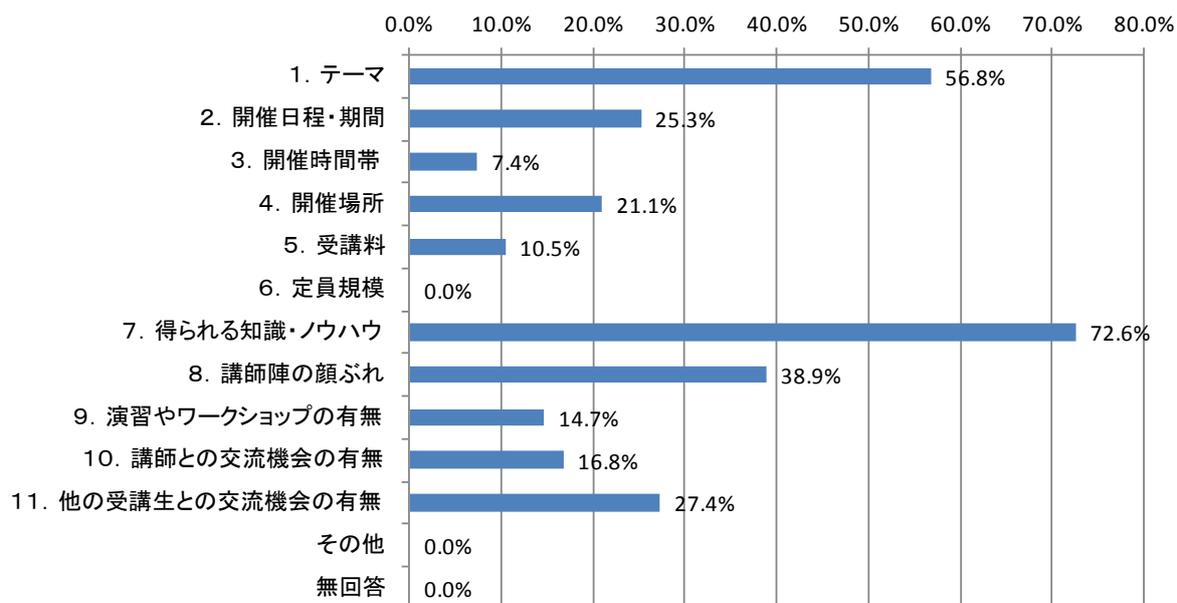
- ・滋賀県立大からの案内
- ・知人からの案内
- ・上田洋平さん
- ・武田氏より
- ・金久保先生からの紹介
- ・新聞記事
- ・富永さんの紹介
- ・スマイルステーション藤原様
- ・市の広報
- ・市の広報
- ・協力隊岡部君のアドバイス
- ・福祉推進委員会
- ・社協関係者からの誘い
- ・やねだんの豊重館長からの誘い
- ・親の紹介
- ・名護市からの情報
- ・名護市観光協会（まちなか講座）
- ・わんさか大浦パークより
- ・事業の運営会社のメンバーが友人で、その友人から

<媒体の名称>

- ・滋賀県立大学 HP
- ・滋賀県立大学
- ・常陽リビング
- ・上田先生のメール
- ・近江未来塾
- ・新聞の折り込み、常陽ウィークリーの記事
- ・つくば市広報
- ・つくばもん
- ・つくば市民活動センター
- ・一般法人 Co-Create
- ・筑波学院大学
- ・つくばスタイル
- ・社内の共有メーリングリストで
- ・名桜大学の HP
- ・秋本康治さんの FB

Q3 研修を受講する際、何を重要視しますか？

- ・研修を受講する際に重視する事項としては、「得られる知識・ノウハウ」が 72.6%と突出して高く、次いで「テーマ」56.8%、「講師陣の顔ぶれ」が 38.9%と続いている。
- ・このため、募集案内には、この3点の明記が重要であることがうかがわれる。
- ・また、3割の受講生が「他の受講生との交流機会の有無」を重視すると回答しており、この点についても導入することが求められている。



N=95

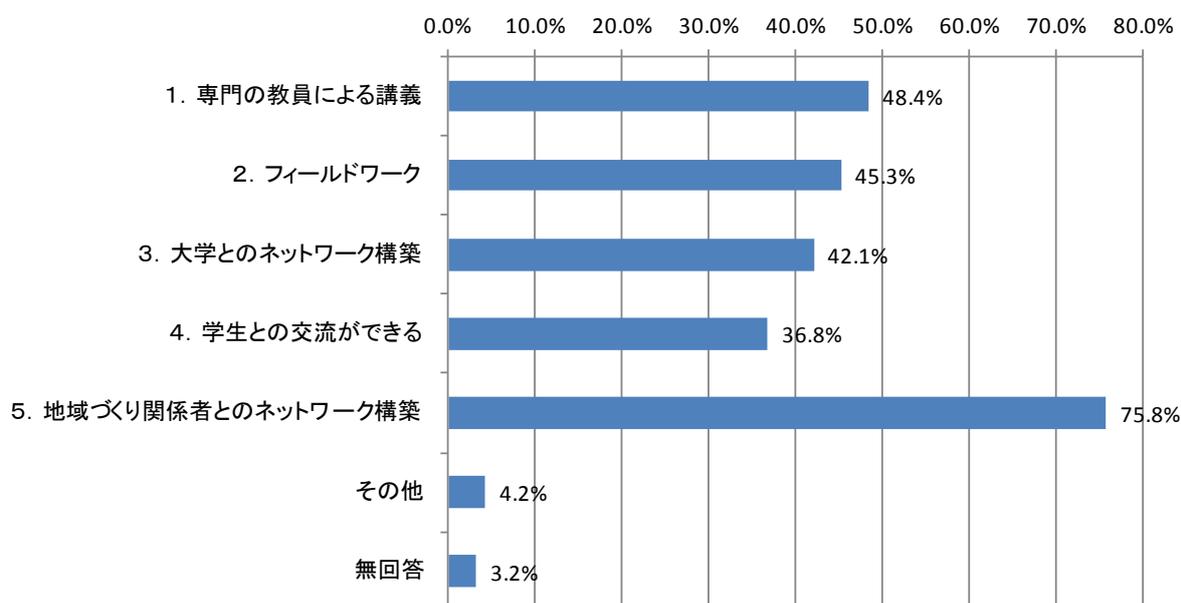
	回答数	%
1. テーマ	54	56.8%
2. 開催日程・期間	24	25.3%
3. 開催時間帯	7	7.4%
4. 開催場所	20	21.1%
5. 受講料	10	10.5%
6. 定員規模	0	0.0%
7. 得られる知識・ノウハウ	69	72.6%
8. 講師陣の顔ぶれ	37	38.9%
9. 演習やワークショップの有無	14	14.7%
10. 講師との交流機会の有無	16	16.8%
11. 他の受講生との交流機会の有無	26	27.4%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	95	

<その他（記述）>

- ・他県（国内）での取り組みについて興味があった
- ・自分の能力が実際に役立つかどうか

Q4 特に、大学と連携した研修に対して、期待することは何ですか？

- ・大学と連携した研修に対する期待としては、「地域づくり関係者とのネットワーク構築」が75.8%と突出して高く、次いで「専門の教員による講義」48.4%、「フィールドワーク」45.3%、「大学とのネットワーク」42.1%、「学生との交流ができる」36.8%と僅差で続いている。
- ・このことから、大学そのもの、あるいは大学が有する専門的・実践的な人材とのネットワークづくりと、専門的・実践的な講義が求められていることがうかがわれる。
- ・特に、受講中の声として、現在行っている活動等の理論的・体系的な理解や、わかりやすい講義、先端的な知識等が学べるなど声も聞かれたことから、この点に対する配慮も必要であろう。



N=95

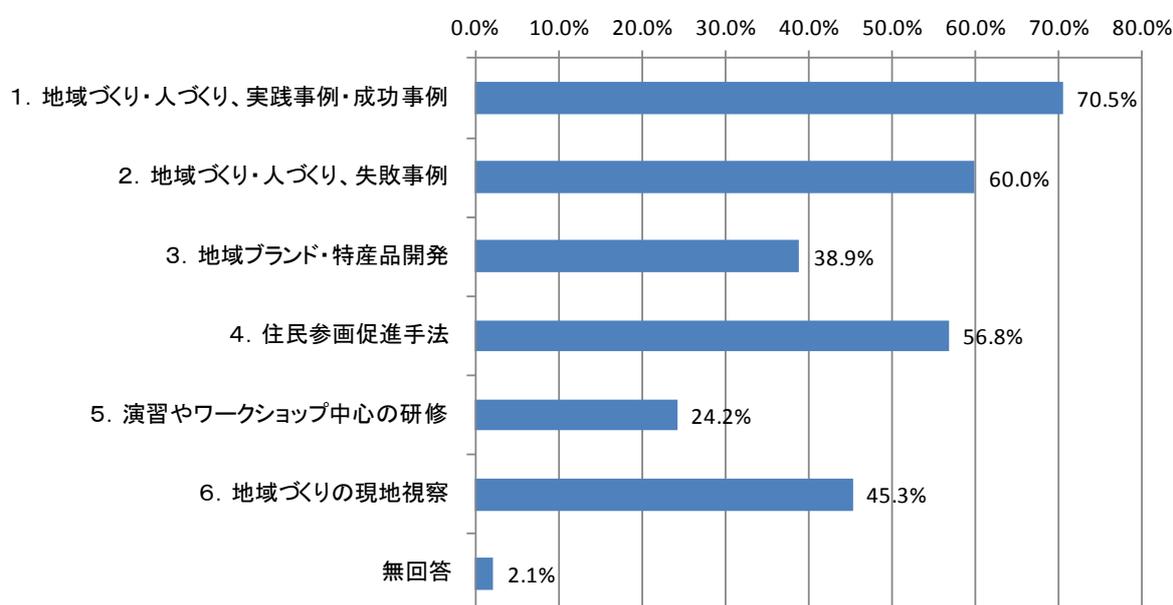
	回答数	%
1. 専門の教員による講義	46	48.4%
2. フィールドワーク	43	45.3%
3. 大学とのネットワーク構築	40	42.1%
4. 学生との交流ができる	35	36.8%
5. 地域づくり関係者とのネットワーク構築	72	75.8%
その他	4	4.2%
無回答	3	3.2%
合計	95	

<その他（記述）>

- ・大学が地域の中核的役割を担うということ。未来に発展性があること。
- ・講座内容の先進性。社会現象の予測。事象の理論背景説明。
- ・行政関係者
- ・卒業生として母校が地域に愛される活動を行ってくれること（発展してくれたら尚うれしい）
- ・今後大学との連携を期待している
- ・前向きな学生と、そうでない学生（地元にいる）を結び付けられないか

Q5-1 今後、どのようなテーマの研修を受けたいですか？

- ・今後受けたい研修のテーマとしては、「地域づくり・人づくり、実践事例・成功事例」が70.5%と最も高く、次いで「地域づくり・人づくりの失敗事例」が60.0%、「住民参画促進手法」が56.8%と続いている。
- ・このことから、他の取組事例の運営方法等を知りたいというニーズが高いことがうかがわれる。
- ・また、担い手の発掘や巻き込みの方法などといった「住民参画促進手法」に対するニーズは高いものの、「地域ブランド・特産品開発」や「演習やワークショップ中心の研修」に対するニーズは相対的に低い。
- ・このことから、テクニカルな手法・技法に対するニーズよりも、担い手確保や関心層を増やす方法といった人材確保に関する方法に対するニーズが高いことがうかがわれる。

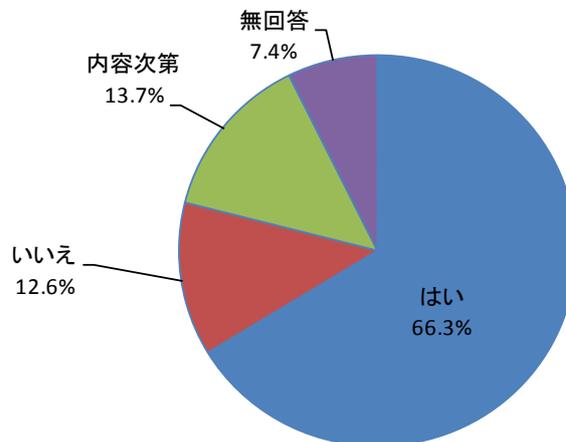


N=95

	回答数	%
1. 地域づくり・人づくり、実践事例・成功事例	67	70.5%
2. 地域づくり・人づくり、失敗事例	57	60.0%
3. 地域ブランド・特産品開発	37	38.9%
4. 住民参画促進手法	54	56.8%
5. 演習やワークショップ中心の研修	23	24.2%
6. 地域づくりの現地視察	43	45.3%
無回答	2	2.1%
合計	95	

Q5-2 今回の講座を受講されて、フォローアップの研修を受けてみたいと思いますか？

- ・フォローアップ研修のニーズとしては、「はい」が 66.3%、次いで「内容次第」が 13.7%となっており、フォローアップに対するニーズが高い。
- ・具体例をみると、他の事例の取組紹介や、その後の取組の経過等が挙げられている。



N=95

	回答数	%
はい	63	66.3%
いいえ	12	12.6%
内容次第	13	13.7%
無回答	7	7.4%
合計	95	100.0%

<その他（記述）>

【はい】

- ・事例研修
- ・やねだんの話
- ・わからない
- ・Q5-1（地域づくり・人づくり、実践事例・成功事例）
- ・実践事例の発表&スキルアップ研修
- ・その後の皆様の取組を知りたいです。
- ・さらに具体的な内容を知りたい
- ・先進地との交流、フィールドワークを基にしたまとめのもっと深い話し合い。第二弾みたいな講座
- ・もっと多くの視察と話を聞きたい
- ・人との連携について
- ・実践
- ・6次産業に取り組みたい

【いいえ】

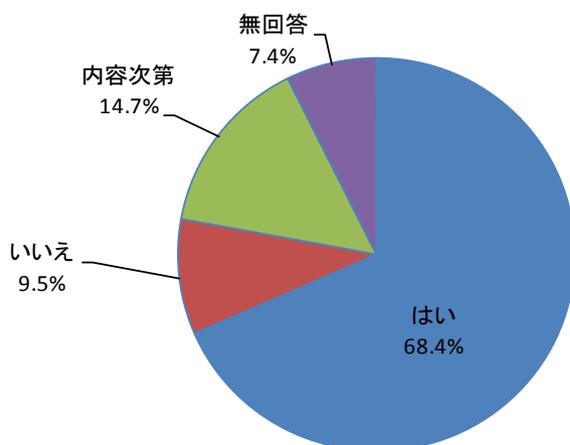
- ・全ての研修を受けたわけではないので判断が難しいです

【内容次第】

- ・内容次第
- ・わからない
- ・実践事例の発表&スキルアップ研修
- ・その後の皆様の取組を知りたいです
- ・講話やディスカッションだけでなく実践を含んだもの
- ・時間帯や開催日が合えば

Q5-3 今回の講座を受講されて、レベルをあげたステップアップの研修を受けてみたいと思いますか？

- ・ステップアップ研修のニーズとしては、「はい」が 67.1%、次いで「内容次第」が 14.3%となっており、ステップアップに対するニーズも高い。
- ・具体例をみると、人材掘り起しのための手法や、テーマ設定型研修、NPO 法人の仕組みに関する研修が挙げられている。



N=95

	回答数	%
はい	65	68.4%
いいえ	9	9.5%
内容次第	14	14.7%
無回答	7	7.4%
合計	95	100.0%

< 具体的内容 >

【はい】

- ・モデル地区を募っての実践するためのノウハウ講座など
- ・人材掘り起こしのための手法
- ・地域資源発掘
- ・実際に地区再生を果たせた話を全国各地から聞きたい
- ・さらに具体的な内容を知りたい
- ・具体的テーマについての研修
- ・(自身も含めて) 人の心を地域づくりに向けさせる術

【いいえ】

- ・全ての研修を受けたわけではないので判断が難しいです

【内容次第】

- ・自分の考えていることが動き出したら、関心を持つことが変わると思うから。
- ・実践事例の発表&スキルアップ研修
- ・時間帯や開催日が合えば
- ・わからない
- ・自営業のため、時間との関係があるので
- ・講話やディスカッションだけでなく実践を含んだもの
- ・NPO 法人の仕組みなど

Q5-4 その他、総務省に行ってほしい研修やセミナーについてご意見あれば記入ください。

【開催方法・周知等】

- ・まち協主催でもこのようなセミナーができる助成を願いたい。
- ・県・市への情報提供及び通知（達）
- ・こういうセミナーをたくさんの方で行ってください。

【開催目的】

- ・今後もリーダーシップ養成講座等を行ってほしい。
- ・フューチャーセンター立ち上げ、ファシリテーター養成。
- ・地域づくり人材のファシリテーション研修

【受講対象】

- ・退職する公務員に社会活動への参加を促す研修があってもいいと思う。
- ・地域に求められる人材を民間や行政マンにも研修機会を与えてほしい。こういう研修やセミナーのPRをもっとして欲しいと思う。
- ・若い人向けに!! 若い人が参加しやすい環境づくり（地域住民、家族、職場等の理解と協力）、啓発（小・中・高・大学生向けの教育も含めて）
- ・縁側づくりに地域ボランティアの力なしには実践できないので、その育成（地域住民代表）をしてほしい。

【講師】

- ・これと同様の内容の他の講師によるセミナーを聞いてみたい。

【講義内容】

■課目について

●知識、技術関係

- ・地域診断法
- ・地域再生の野外活動&農業を介した、ひきこもりやニートや高齢者を社会に出やすい状況つくる滞在型のトレーニングキャンプや宿泊体験プログラムと実施スタッフの就農に繋がるサポート（プロ農家）とのマッチングによる地域活性する研修やセミナー。
- ・自己資金なしに地域基盤や省エネ、自然エネルギー利用システムなどが整備できる仕組みづくりを指導してほしい。
- ・行政に関係するもの。交付金助成金等。
- ・ご当地キャラクターの成功事例のセミナーをやってほしい。
- ・イベント事業をマネジメントできるような実践している方の講義。
- ・地域づくり・人材育成を行う上で国が実施している又は実施予定の優遇制度等の紹介・活用例。
- ・インターネットを活用した地域からの情報発信について。

●意識・理念関係

- ・地域間交流セミナー・イベント・成果報告会等、より広域の話題を聞きたい。
- ・官・民（学・NPOも）共同（共働）で行う事業等の事例など。
- ・地域づくりのモデル地域の実践報告会などがあれば参加したい。住民参画のための基盤づくり、

成功例。

- ・自然体験活動の現状と展望、エコツーリズムで地域活性化。そもそも地域活性化とは？
- ・他の地域での成功事例
- ・先進現地視察などにお行く機会があれば、是非参加したいです。

■講義方法について

- ・地域の課題をテーマに話ができればいい。
- ・国内で実践している実状を知りたい（視察研修）。現地を学びたい。
- ・フィールドワークなどを通じて地域資源・人材発掘を行った後の組織形成・最初の事業実施を行う参加型プログラム。企業塾に近いものだが、実際の組織立上げ、事業計画・実施を行う。
- ・地域では聞けない講座を連続して受けたい
- ・地域づくりや人づくりに関して、講話聴講やディスカッションなどのその場で終わってしまうようなものだけでなく、研修参加者でチームを作って地域課題の解決やプロジェクト企画実行に実践できるような実践型の研修を希望します。
- ・被災地関係の研修を行っても良いと思いました。（私自身が被災地に派遣に行かせて頂きたいので）
- ・学生を交えての話し合いの場を増やしてほしいと思います。
- ・大学、地域、企業などの様々な人たちが集まるワークショップ

【フォロー】

- ・研修やセミナーを受講した方々のアイデアや感想（このアンケート）をテーマにして更に形にしたり、ひろがるようなセミナーを作ってみては？と思います。どうしても、今後は情報やメディアを主催者側だけでなく、シェアする仕組みが大切だし、求められると思います。

【その他】

■支援

- ・超高齢社会の中、地域の空き家を利用して（地域の中に歩いて5分間内）三世代の交流の場を作りたいと思います。その時、中学校区、又は小学校区に毎年立ち上げを市民と行政と協働できるように（しぼりのある）予算を前進させてほしい。毎日責任を持って活動する人材費用、空き家を活動できる場を地域の温かい（記述途中まで）
- ・具体的に何をどうしたいのか自分の中ではっきりしないままだったので、ガッツリつかめた感じではなくふわふわしてる。

■その他

- ・地域特性を活かした地域づくりを進めていく際、一般地域住民の人々に総務省が身近な存在に感じられるような姿勢・育成を学びたいと思った。
- ・学校の教育：勉強は何のためにするのかを小さいころから教えてほしい（人の役に立つため、人を楽しませるため）。社会人全員に：「人として」の教育を学ぶ時間を行ってほしい。
- ・本部（国）が考えていることを末端（自分達）まで具体的に情報を知ることができるようにしてほしい。
- ・地元の大学に頑張ってもらいたい。

Q6 今回の研修を通して、ご感想等、自由に記入ください。

【開催・周知に関すること】

- ・地域づくりの本家である総務省が、地域づくり人育成と大学を結びつけたことが時宜を得たものと思う。継続的にできれば良いのだが・・・。
- ・すでに活動を始めている人向けとは思わなかったので難しかったです（人数制限があったのに申し訳ないです）。何か活動をするようになったらぜひまた参加したいと思います。
- ・もっともっとやってほしい。
- ・急な話だったので周知の徹底に欠けており、只々もったいないと思った。菊池にも人財はもっているだろうが、本当に周りの人のみで惜しい限りだった。今回は地域づくり人という題だったので漠然としており、またの機会があれば、目的をはっきりさせて（講義を受ける人で討論したうえで）、臨みたい。何らかの行動を生む結果につなげたいと思う。今回の講座で、何かしなければという、一つの動きが出て、意志表示ができたのは本当にうれしい限り。
- ・町内の参加者が少ないのはなぜか。ためになるのに。
- ・日程、時間的に限られた人の受講になり、もっと数多くの人が学べる機会があるといいと思った。実りある研修ができただけでももったいなく感じている。難しい問題だと思うが、何回もは開催できないだろうし・・・。
- ・自治体職員が少ないので是非参加してほしい。大学も地域貢献しなければいけないから、大学教員もフィールドに出てきてほしい。
- ・大学生に情報があまり知られていなかったのが残念。
- ・北部地域でこのような人材育成事業が実施されたことは素晴らしいが、北部地域の参加者がより多くなると尚良いと思う。

【講義内容・運営に関すること】

- ・短時間ではありましたが、多くのことを学ぶことができました。
- ・①知識・スキルが上がったこと②多くの人に出会えたこと（居合わせるは幸せる）③フィールドワークができたこと。
- ・とても勉強になったというのが正直な感想です。様々な物事の意義、何故そうなっていくのか、等の法則が理解できて、脳みそが刺激されました。
- ・講座①～⑥全部すばらしい示唆に富んだ内容だった。講座⑦グループ演習1、グループ演習2とともに2日間の集大成にふさわしい企画だった。グループ協議が成功するノウハウを教えてください厚く感謝申し上げます。感動的なフィナーレだった。※富永先生のひとことひとことが悩み、迷いを払拭する名言だった。
- ・コーディネーションはまず他者に対する想像する力から始まると思いました。楽しく学べたことを厚く感謝します。ありがとうございます。
- ・講座が終わるごとに隣の人との相談の時間で情報交換がいろいろとでき、交流を深めたことがとてもよかった。貴重な時間となりました。準備など大変お世話になりました。参加して良かったです！！
- ・年齢職業の異なる人との意見交換ができて貴重な体験ができた。
- ・短い時間でしたが、自分に不足していたコミュニケーション力を養うことができた。聴くことの大切さを実感した。これからの仕事に役立てたい。

大変興味深く、時間を忘れさせられる程おもしろく聴講した。仕事にプライベートにと、すぐに役立てられる内容で、とても有意義だった。

- ・具体的な内容をより詳しく知りたかった（時間をかけて学びたい）。
- ・とにかく自分の知識や技能（話し方など）になった。また、今まで交流のなかった所に行けたし、受け入れてくれた地区の方が、草取りまでしてくれて、もてなしてもらったことが一番の感激だった。
- ・講演の時間が少し短いような気がした。もっと現地に赴く内容が欲しい。
- ・期待以上の事例を知ることができて良かった。ワークショップもちょうどよく最後まで時間を忘れて参加することができた。また機会があれば参加してみたいと思った。ありがとうございました。
- ・全国の地域づくりや人づくりの実践事例を学び、とても参考になったが、北部地域または沖縄県と同じ規模や条件の地域での事例もぜひ見てみたかった。
- ・実際の現場の実例を知ることができ、ワークにより頭の中の整理方法を知ることができ、今後の活動にとっても役に立った。
- ・ブランディングの重要性と地域と密着したブランディングの必要性を今回の講習を通して改めて感じる事ができた。
- ・後半の参加者同士で行うワークショップはとても良く、いろんな方の話や考え方、グループでの意見のまとめ方などとても良かったので、今後はこういう形の講座を行ってほしいと感じました。

【ネットワークづくりに関すること】

- ・多くの人財にお会いできて良かった。
- ・公務員、大学教員、大学生、個人商店主、NPO 法人職員、いろんな立場の者が集まって情報を交換して、互いの立ち位置を確認して、次へのアクションにつなげる機会づくりになりました。
- ・フィールドを中心とした研修が役に立つ。
- ・地域を良くするために様々な活動をしている大人に会ってとても刺激的だった。自分のやりたいことをまずやってみるために動き出す勇気があれば何でもできそうな気がした。一方、これが社会に役に立つのかと疑問もあった。コーディネーターが必要とされることはよく分かったが、自分でうまくいくような感じはしない。
- ・普段の生活では知り合えないようなたくさんの方とお話できてとても楽しかったです。みんな状況はそれぞれ違ってもそれにアプローチする方法、つながることの大切さを認識することができました。市役所に話をし、断られたらそこで終わりだと考えていたのがもったいないことだと思いました。いろいろな人とつながっていきたくてと思いました。
- ・地域について、熱心に考えておられる方々の存在を知り、心強く思えました。市民活動も新たな次のステージ（希望を持てるソフトで可能性広がる）に進んでいることのいろいろな方に出会えてよかったです。
- ・受講生のネットワークが続けられて欲しい。
- ・研修にワークショップを取り入れてくださったおかげで、参加者の学生とつながることができ、研修以外の場でも交流を続けることができている。

- ・他の人とのつながりもとても良かったです。ありがとうございました。

【受講後の意欲等に関すること】

- ・つくばの為に何かしたい、と考えていたことが、先生のお話やまわりの方々のアドバイスで更に意欲がわいてきました。必ず形にしたいです。
- ・とても良かった。(富永先生に会えてよかった) 土浦の行政の方にも報告できます。
- ・参加して非常に有意義であった。
- ・期待します。
- ・地域という考えについて、素人ですが、地域の中で活躍されている方がどのように考えて、どんなことを悩まれているのかが分かってとても面白かった。これを自分の仕事のみならず、日々考える糧にしたいと思う。つくば、茨城にゆかりがあるものではないが、今後もこのつながりを大切にして、情報交換をして行けたらと思う。
- ・本日はありがとうございました。経営感覚を意識し、引き続き勉強したいと思いました。また、どうぞこのような機会がありましたらよろしく願います。
- ・ありがとうございました。有意義な時間を過ごすことができました。実践・現場に活かしていきます。
- ・とても楽しかったです。
- ・講師それぞれから地域づくりに対する熱意を感じた。私自身もテーマを持って今後の人生に繋げていきたいと思う。
- ・住民との係わり方について地域づくり方についてのヒントが見えてきたように感じられた。
- ・今回は都合が合わず、1回しか参加できなかった。できれば参加したい。
- ・研修を重ねる度に研修生の思いが熱く、また、同じ方向を向いて進んでいることに勇気をもらった。
- ・地元において、地域の宝物が何であるか知らず、知るいい機会になった。12月の毎週の研修が少々大変だった。立派な講師陣の講演が聴けて大変良かった。地域づくり、人づくりの学びの場になり、どのようにしたらいいか考え、行動に移すことができたと思う。
- ・連帯感が希薄になりつつある現代、地域づくりは簡単なようで難しい問題であるが、平日頃の日常生活から両隣りの人達とコミュニケーションを取り合うことの大切さと同時に横と縦のネットワークのつながりを拡大していく重要性を知る。
- ・今回、菊池市を選んで下さりありがとうございます。全国で5か所だけと聞き、大変うれしく思う。今回学んだノウハウしっかりと地域で役立てさせてもらおう。
- ・終講式でスピーチの場を頂きありがとうございました。8回の講座は大変内容が濃く、総務省からの方向性や公民館事業など、関心深くお話を聞かせていただいた。この研修で共に学んだ塾生の方々と交流を持ちながら、菊池市をよりよく活力ある地域を増やすことを目標に、この力を駆使してこつこつ進めていきたいと思う。大変楽しく参加させていただいた。ぜひ、活かせるチャンスを作りたい。
- ・今回初めて教えていただくことばかりで本当に感謝。菊池で15年程前から生活するようになって、初めて心がやわらかくなった。今回の研修を通して、素晴らしい人と出会うことができた。一人でも多くの人々にこんな素晴らしい研修を経験させてあげたいと思う。
- ・地域づくりにおいて、リーダーとなる仲間をまず探し、思いを共有し、伝えていくことが、ま

ず、第一だと思った。決して一人で突っ走ったり、引いたりしない、ぶれない自分がいることが大切。前を向いて歩く姿を忘れず、仲良く、楽しく地域づくりをしていきたいと思う。

- ・自分自身のことは、自分でよくわかっている面と分からない面と2面あると思う。というふうに物事は100%理解することはできないが、わかろうとすることが大切だということを学んだ。それと一人で頑張るのではなく、多くの人達と分かち合っていかなければならないと知った。
- ・実行委員の皆様、大変お疲れ様でした。
- ・菊池社協の方々の努力に感動。菊池では、今後、民間主導・市民主体のまちづくりが大きく発展することと思う。総務省の皆様ぜひご注目を。
- ・私はやねだんの地域づくりについて受講したのですが、思っていた以上の受講者がおり、また良い雰囲気を受講できたのが大変良かったです。次回も期待したいと思います。ありがとうございます。
- ・このような素晴らしい研修に参加できたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。
- ・今回は「やねだん」の事例を勉強させていただきましたが、今後はもっと多くの事例（失敗例も含む）を学んで、自らの業務に役立てていければ良いと思いました。また講義だけでなく、ボランティア活動などのイベント？もあるのであれば参加していきたいです。今回は大変中身の濃い講義を受講させていただき感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。
- ・学生として参加できてとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ワークショップがあり、とてもためになりました。ワークショップの楽しみをもっと多くの人に伝えてください。
- ・新たな気づきの機会となり、又受講の機会を期待します。
- ・やねだんの自治会長さんの地域づくりに感動しました。とても良い講座で心より感謝します。ありがとうございました。
- ・ワークの中でやんばるの地域で区長さんをされてる方など、実際に地域で活動されている方たちとお会いしてお話を伺うことができ参考になりました。ありがとうございました。
- ・2回しか参加できませんでしたが、自治体職員として地域の皆様の率直な意見を聞くことができ、とても参考になりました。今後もこのような機会があればできるだけ参加し、地域と行政が一体となって地域づくり・人材育成に取り組んでいけるような関係を構築したいと思います。
- ・たいへん良い学びの場となりました。また講師選定が非常に良かったと思います。このような機会を度々提供して頂けるとたいへん助かります。様々な事例を通し、如何に自身の地域へ落とし込んでいくのか・・・大変難しい部分ではありますが、成功事例や失敗事例をもとに検討していこうと思います。
- ・大学が地域と連携しながら取り組むモデルは素晴らしいと思いました。双方に欠けている所を補い合い、明るい未来に向けての取り組みに希望が持てました。
- ・今回の研修に参加させていただき有難うございます。他の地域の取り組みを知ることで自分たち地域でも実践していきたいと思います。また、日々、交流することができない方々と出逢えたことも、この研修に参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・県内にとどまらず、県外から講師を呼んでいただいたので、知り合える良い機会になりました。

ありがとうございます。

- 今回の研修で、貴重な話をいくつも聞かせていただきました。多くの事例を元に話をして頂いたので、どの研修も具体的でイメージしやすく、毎回勉強になり、楽しく研修を受けることができました。また、名護の名桜大学でやっていただけたことは、大学生としてとても有難かったです。もっと多くの学生にも周知してより実りが期待できる研修にしていけば、良いかなとも感じました。研修を通じて、講師の先生、地域の方々や他の大学の学生と交流する機会にもなったので、『交流の場』、『ネットワーク構築の場』として役割も担っていたと思っています。
- 研修有難うございました。自分たちだけではないと思い終了後は気持ちが奮い立ったように思います。感謝しています。
- 北部地域を活性化を目指す良い取り組みの事例だと思います。今後も継続してほしいと思います。またインターネットを活用して会場にいなくても参加できる仕組みができればいいなと思います。

3. 本年度の成果とポイント

(1) 域学連携による成果

これまで地域のまちづくり団体やNPO、地元の大学等がそれぞれで展開していた講座等が、本事業により地域のまちづくり団体やNPO、地元の大学等が連携し「実行委員会」を設置して運営された。

地域の事情等により、行政主導、NPO 主導、大学主導など運営スタイルは異なったものの、各「実行委員会」から連携の効果が挙げられた。

「実行委員会」に対するヒアリング調査や報告、受講者アンケート結果、報告会における議論から、域学連携による人材育成（講座）の成果は以下のように整理できる。

① 企画立案

■これまでと違った専門性高いカリキュラムの構築

- ・大学担当者との議論や、大学教員による講義・フィールドワークでの解説など、これまでとは違った専門性が高いカリキュラムが構築できたということが効果として挙げられた。
- ・また、受講者アンケートでも「専門の教員による講義」が第二位の期待として挙げられている。特に、“自分たちの活動の意義が体系的に理解できた”、“理論的に理解できた”などといったという声も寄せられている。

■多様な講義の設定

- ・大学教員の参加や大学のネットワーク、NPO のネットワークなどにより、講師の幅が広がったという効果も指摘された。
- ・特に、講師の多様化は、受講者が様々な考え方を知ることにつながり、地域課題解決のヒントとなるなど、受講生の意欲の高揚や、新しい解決策の創出などの期待が高まるといった意見も見られた。

■臨場感のある講義等の構築

- ・NPO がもつ実践的知識、大学による理論的知識、行政がもつ経験的知識を組合せることにより、臨場感のある講義を組み立てることができたとの点が多く指摘された。
- ・特にフィールドワークでは、地域が抱える課題等について、直接、地元住民や行政・NPO 担当者などから聞くことができ、それに対応した講義内容を検討したなど、リアルな講義が組み立てられたという意見も多く見られた。

■講義機会の多様化

- ・一方、大学サイドから、これまで大学校舎において実施していた講義等が地域施設で展開できた、あるいは、地域住民への講義や、地域におけるフィールドワークの展開など、講義機会が多様化したという効果も指摘された。

② 連携・ネットワーク

■ネットワークの多様化

- ・行政やNPO等の連携により多様な人財ネットワークが構築された。
- ・大学サイドにおいても、大学や大学人のネットワークにはない種類の人財とのネットワークが広がったという。

■広域連携の可能性の発見

- ・今回の連携では、行政やNPO、大学がそれぞれ一つづつというケースが多くなっているが、「やんばる地域づくり人育成講座実行委員会」や「近江地域づくり人交座実行委員会」では、複数の行政機関が連携している。
- ・この結果、フィールドワークの対象地域や受講生募集の配布範囲の広域化が見られるなど、「講座」をきっかけとした広域連携や地域間連携の可能性が見られた。

③ 講義の運営

■運営ノウハウの取得

- ・教育の専門機関である大学と企画段階から協働して取り組むことにより、「講座」の企画運営のノウハウを得ることができるとともに、経験を積むことができたという。
- ・特に「研修」という人財育成に関するスキルは、NPOや行政にとって不慣れなスキルであったため、協働して企画立案と運営を行ったことは大きな財産になったという。

■問題意識を共有したスタッフ等の確保

- ・行政、NPO、大学それぞれで運営に係るスタッフが確保された。
- ・特に、大学との連携では、問題意識を共有する学生たちを本事業に参画させることができ、担い手確保に大きな貢献があったという。学生の参画があった「実行委員会」では、インターネットの活用など学生ならではのアイデアや提案がなされ、「講座」運営の可能性が広がったという。

④ 目標の達成

■設定目標の達成

- ・多様な主体の連携により、実践的知識・理論的知識・経験的知識が融合されるとともに、それぞれがもつリソースの活用により、効率的・効果的な運営ができた結果、各「実行委員会」とも、当初、設定した目標を達成できたと報告されている。
- ・各「実行委員会」では、「地域づくりや地域に対する住民意欲の醸成」、「地域の状況理解」、「コーディネーターの役割の理解」、「受講生の人財ネットワークの構築」、「地域調査やプレゼン手法の養成」など個人の意欲醸成や技法習得といった個人資質の向上、人財発掘・担い手確保、講座運営ノウハウの習得など「実行委員会」のノウハウ養成・経験値の向上など、さまざまな達成目標が設定されたが、概ね達成できたと報告された。

■新しい活動の萌芽

- ・この「講座」を通じて、受講生相互の紐帯や一体感が醸成され、「講座」終了後、新しい活動や新たな団体の立ち上げが報告されている。
- ・また、学生の参加があったフィールドワークでは、学生からの提案が地元住民に刺激を与え、地域おこし活動の具体的な話がでてきた。

(2) 域学連携の運営の留意点・ポイント

団体に対するヒアリング調査、アンケート結果、報告会での議論から、域学連携による人財育成（講座）の運営のポイントとして以下のものが挙げられる。

① 企画立案

■講義内容の検討

- ・多様な講師、様々な講義、専門性が高い講義が組み立てられるとの効果が指摘される一方で、各講義内容の十分な検討が重要との意見がみられた。
- ・地域の現状にそぐわない講義や、受講生の希望に合致しない講義が存在する場合は、受講生の消化不良につながるだけではなく、「講座」そのものの開催意義が問われる懸念があるとの指摘も見られた。
- ・今回の受講生のアンケートからは、ワークショップや商品開発のノウハウより、他の取組事例や住民参画を促す手法を知りたいというニーズが高いことから、受講対象のニーズを勘案しながら、このようなニーズを取り入れながら「講座」を組み立てることも必要であろう。
- ・また、受講生からは、現在行っている活動等の理論的・体系的理解や、わかりやすい講義を聞きたい、先端的な知識等を学びたい等の声が聞かれることから、この点に対する配慮も必要であろう。

■講義間の調整

- ・上記に加え、講義間の調整が重要との意見がみられた。
- ・特に、各講義のつながりの不整合や、講師による意見・主張の相違などによっては、受講生が混乱し、学びの深まりが欠けてしまう恐れも指摘されている。
- ・このため、「講座」の一貫性や、達成目標を実現するために、講義間の調整を行うことが重要である。

■開催時期等調整

- ・豪雪地域では冬季開催、特に夜間開催は天候に大きく左右され、これは講師の到着だけではなく、受講生の参加にも大きく影響したという意見が見られた。
- ・また、農繁期においては受講生が参加しにくい時間帯がある。
- ・また、大学においても試験、入試、卒業論文提出など繁忙期がある。
- ・このため、「実行委員会」の構成員の都合のほか、受講生の特性も考慮して、開催時期および

開催時間を検討する必要がある。

② 連携・ネットワーク

■協働作業の強化等による各主体間の関係強化

- ・行政やNPO等の連携により多様な人財ネットワークが構築されたと、全ての「実行委員会」から報告が上がっているが、各「実行委員会」でも、その準備に向けた協働作業を行った結果、その関係性が深まったという。
- ・前述までの連携・ネットワークを深めるためにも、各主体が当事者性を持ち、積極的に事業参画することが重要である。

③ 講義の運営

■リソースの活用

- ・各「実行委員会」では、行政、NPO、大学等がそれぞれもつ施設、機材、受入地域などのフィールド、ノウハウ、人財などリソースが持ち寄られ、「講座」の組み立てに有効に役立てている。
- ・特に、フィールド、ノウハウ、人財を持ち寄ることにより、各講義の枠組みの幅を増すことに成功している。
- ・また、受講生の中には、大学施設で講義等を受けることで受講への意欲や姿勢を高めているケースも見られている。

■主体間協議の充実

- ・ミッションや立場がそれぞれ異なる「実行委員会」の構成主体が連携して「講座」を運営するためには、意志疎通を十分に行い、準備を周到に行う必要がある。
- ・本事業では、普段からの関わりがあったため短期間でも「講座」に対する十分な意志疎通ができたと報告する委員会がある一方で、時間不足のために十分な意志疎通ができず、この結果、十分に成果が出せなかった点があると報告があった「実行委員会」もみられた。

④ 広報・PRについて

■的確な周知

- ・受講者アンケートを見ると、受講生が受講を決める重要事項として「得られる知識・ノウハウ」、「テーマ」が突出して高い。
- ・一方、今回の「講義」では、学習（あるいは習得できる）内容やスケジュールについての的確な周知が不十分であったことから、開催日によって参加者数が大きく異なったケースが見られた。
- ・このため、受講生の視点にたち、学べること、テーマ等を明確にする必要がある。

■十分な周知期間の確保

- ・今回は短期間での実施となったため、広報PRが十分にできなかったため、参加者の分散や

少人数化、フィールドワーク受入地域の盛り上がり不足などの反省が挙げられた。

- ・このことは、早期のカリキュラム策定により十分な周知期間を確保すれば、参加者の確保や受入地域の機運醸成などが可能となることを意味しているといえる。

⑤ 目標の達成

■目標に合ったカリキュラムの構築

- ・前述のとおり、各「実行委員会」では、それぞれに達成目標を設定し、各「講義」の展開によりそれぞれの目標を達成している。
- ・このためには、目標に合ったカリキュラムを丁寧に作り上げることが必要である。今回、各「実行委員会」では、講義ごとに「ねらい・目的」、「学習内容と効果」、「到達目標」を検討し、カリキュラムとしてまとめている。

■受講生相互の一体感、紐帯を実感できる講義の検討

- ・前述のとおり、本「講座」を契機に、受講生や地域住民等による新しい活動が生まれようとしている。
- ・これを促すには、座学だけでカリキュラムを構成するだけでなく、演習やフィールドワークを取り入れるなど、受講生が協働で作業をする講義を取り入れる必要がある。
- ・受講生相互の関係性を醸成するには、単発的・短期間の講義では不十分で、一定の回数・期間をもつカリキュラムが必要である。

4. 今後の展開

(1) フォローアップの展開(フォローアップ講座の必要性)

- ・受講者アンケートをみると、今後、フォローアップ研修を受けたいというニーズは 66.3%で、内容次第とした回答者(13.7%)をあわせると、80%の受講生が受けたいと回答している。
- ・この場合の「講座」の内容としては、スキルアップ研修、実践事例の把握、実践活動等が挙げられている。
- ・各「実行委員会」からは、受講生に対するフォローアップとして、FaceBookなどのSNSを活用した受講生・講師ネットワークの構築や、フォローアップ講座の開催を予定している。
- ・また、今回の受講生の中には、新しい活動団体の創設や新しい活動の展開を目指すケースが報告され、その場合の「実行委員会」の対応として、その具体化支援が検討されている。
- ・今回の事業で萌芽した地域の取組を継続するためにも、地域でのサポートが期待されているが、その取組を支える国のサポートして、フォローアップ活動に対する講師派遣等の人材面、フォローアップ講座の企画に対する人財派遣といったサポートを検討する必要があるだろう。

(2) ステップアップの展開(ステップアップ講座の必要性)

- ・受講者アンケートをみると、今後、ステップアップ研修を受けたいというニーズは 68.4%で、内容次第とした回答者(14.7%)をあわせると、83.1%の受講生が受けたいと回答している。
- ・この場合の「講座」の内容としては、人財の掘り起しや地域資源発掘などといった活動の実践に必要なノウハウ講座が挙げられている。
- ・各「実行委員会」では、今回始まった講座の継続や、フォローアップの展開は議論されているが、ステップアップ研修まで着手するといった意見は見られなかった。特に、今回の講座の改善やバージョンアップが喫急の課題とする意見が多く占める中、ステップアップ研修まで言及することは体制的にも、ノウハウ的にも余裕がないものと思われる。
- ・このため、本「講座」(初級講座)の定着を図りつつ、地域づくりのニーズに応えるためには、当面の間、ステップアップ研修(あるいは中級講座)の開催については、国の実践が必要と思われる。

(3) 「域学連携」地域づくり人育成講座開催地域の拡大

- ・受講者アンケートや受講者の声を聞くと、この「講座」を全国各地で開催するよう求められている。
- ・各「実行委員会」からも、「域学連携」による本講座の各地開催は今後の地域づくりの担い手、地域づくり人を育成する上で非常に有効であることから、対象地域の拡大が求められている。
- ・また、報告会での議論では、都道府県単位あるいは広域市町村圏単位の可能性や有効性が指摘されており、このタイプの開催も想定できる。

